

東京放射線

Tokyo Association of Radiological Technologists

2026年

1月号

Vol.73 No.845

巻頭言

年頭所感「承前啓後」 江田哲男

会告

第23回ウインターセミナー
2025年度多摩支部研修会
第20回ペイシェントケア学術大会

お知らせ

2025年度第8地区研修会
2025年度第12地区研修会
2025年度第6地区研修会

報告

叙勲受章報告

新春企画

2026年新春座談会



公益社団法人東京都診療放射線技師会
<https://www.tart.jp/>

X線CT装置

NAEOTOM Alpha with Quantum Technology CT redefined.

www.siemens-healthineers.com/jp

The world's first photon-counting CT

イノベーションにより技術が飛躍的に進歩すると、常識が変化することがあります。
世界初*のフォトンカウンティングCTの登場はまさにその瞬間と言えます。
フォトンカウンティング検出器を採用したNAEOTOM Alphaは、CTの定義を一新しました。
QuantaMax detectorは先進的な直接信号変換をベースとして開発されており、
より多角的に臨床情報を得ることが可能になります。

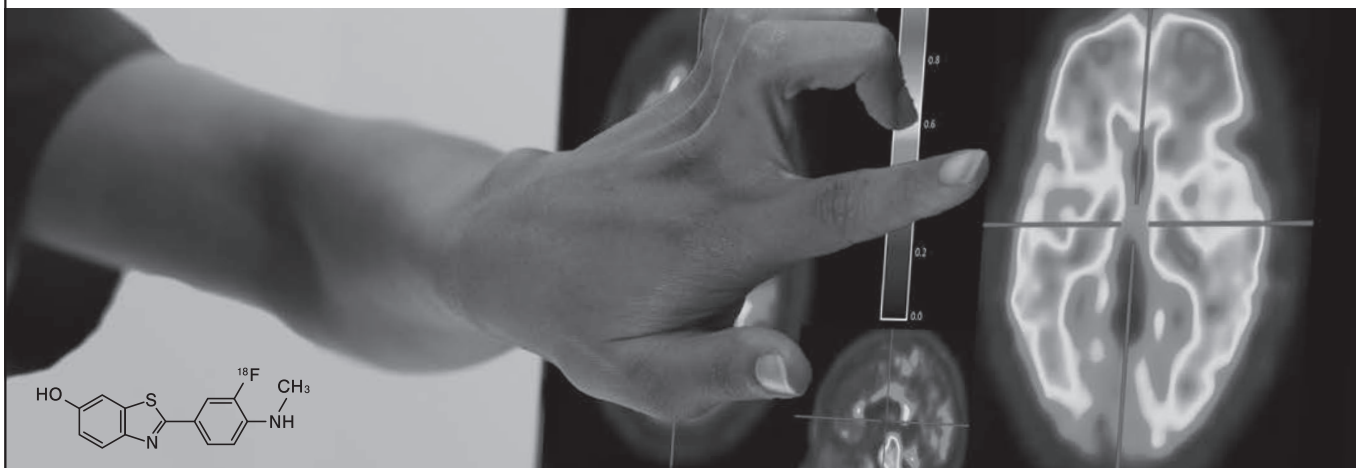
*2022年2月 自社調べ



SIEMENS
Healthineers

全身用X線CT診断装置 ネオトム Alpha 認証番号: 304AIBZX00004000

nihon
medi+physics



放射性医薬品・脳疾患診断薬

薬価基準収載

処方箋医薬品^注

ビザミル® 静注

放射性医薬品基準フルテマモル (¹⁸F) 注射液

®:登録商標

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等は添付文書をご参照ください。



製造販売元

日本メジフィジックス株式会社

〒136-0075 東京都江東区新砂3丁目4番10号

文献請求先及び問い合わせ先 ☎ 0120-07-6941

弊社ホームページの“医療関係者専用情報”サイトで
PET検査について紹介しています。

<https://www.nmp.co.jp>

2024年8月改訂

新年 賀 謹

2026年 元旦

本年もよろしくお願い申し上げます

顧問	顧問	監事	監事	副会長	副会長	副会長	会長
篠原 健一	中澤 靖夫	野田 扇三郎	白木 尚	浅沼 雅康	関 真一	野口 幸作	江田 哲男

業務執行 理事(総務)	鈴木 雄一	業務執行 理事(庶務)	木暮 陽介	業務執行 理事(教育)	市川 重司	理事(経理)	石田 雅彦	理事(渉外)	高野 修彰	委員長(編集)	岩井 譜憲	理事(学術)	市川 篤志	理事(広報)	江積 孝之	理事(厚生調査)	今尾 仁	理事(情報)	竹安 直行	理事(災害対策)	渡辺 靖志	委員長(第一地区)	増田 祥代	理事(第二地区)	島田 諭	理事(第三地区)	布川 嘉信	委員長(第四地区)	松田 敏治	委員長(第五地区)	北野 りえ	委員長(第六地区)	伊佐 理嘉
委員長(第七地区)	富丸 佳一	理事(第八地区)	大津 元春	委員長(第九地区)	西郷 洋子	委員長(第十地区)	澤田 恒久	委員長(第十一地区)	名古 安伸	委員長(第十二地区)	吉村 良	理事(第十三地区)	鮎川 幸司	委員長(第十四地区)	長谷川 浩章	委員長(第十五地区)	池田 麻依	理事(第十六地区)	関谷 薫	委員長(表彰)	黒澤 昭典	委員長(国際)	桐 洋介	委員長(定款諸規程等検討)	島田 諭	委員長(放射線相談)	笹沼 和智	委員長(入会促進)	中尾 愛	事務局	引地 春枝		

スローガン

チーム医療を推進し、
国民及び世界に貢献する
診療放射線技師の育成

2026
JAN

CONTENTS

目次

謹賀新年	1
巻頭言 年頭所感「承前啓後」	会長 江田哲男 3
告示1 2026・2027年度代議員及び予備代議員の立候補受付について	選挙管理委員会 4
会告1 2026年「新春のつどい」のご案内	8
会告2 第165回日暮里塾ワンコインセミナー	学術委員会 9
会告3 2025年度実践集中講習会—MRI装置/検査—	教育委員会 10
会告4 第166回日暮里塾ワンコインセミナー	教育委員会 11
会告5 第23回ウインターセミナー	学術委員会 12
会告6 2025年度多摩支部研修会	多摩支部委員会 13
会告7 第20回ペイシェントケア学術大会	学術委員会 14
会告8 2026年度定期総会での表彰（勤続20年）について	渉外委員会 20
お知らせ1 2025年度第9地区研修会	第9地区委員会 21
お知らせ2 2025年度第15地区研修会	第15地区委員会 22
お知らせ3 2025年度第8地区研修会	第8地区委員会 23
お知らせ4 2025年度第12地区研修会	第12地区委員会 24
お知らせ5 2025年度第6地区研修会	第6地区委員会 25
報告 叙勲受章報告	26
新春企画 2026年新春座談会	28
パイプライン	
・第25回合同学術講演会	36
2025年4月～11月期会員動向	37
2025年度第7回理事会報告	38

Column & Information

・求人情報	37
-------	----

2026年の表紙

今年の表紙はこれまでのクリスタルイメージにカラーグラデーションを加えました。

使用した色は緑から青で、緑は癒し、安らぎ、平和等のイメージがあり、青は冷静さ、信頼、清潔感等のイメージがあります。クリスタルの浄化と邪気払いが相まって、「東京放射線」が会員の皆さまの安寧の一助になれば幸いです。本年もより一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

編集委員会

巻頭言



「承前啓後」

会長 江田哲男

2026年の新春を迎え、皆さまには晴れやかな気持ちで新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。昨年も本会事業に対し、温かいご理解とご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。おかげさまで、事業は大きな混乱もなく進行し、多方面にわたり実りある成果を挙げることができました。

昨年は、通信雑費の見直しをはじめとした運営経費の削減を積極的に進め、支出を大きく抑える取り組みを行いました。限られた財源の中で持続可能な運営体制を構築するための重要な施策でしたが、その裏側では、各委員会・各地区の皆さまに多大なご負担をお願いすることとなりました。この場をお借りし、真摯なご協力と献身的なご対応に深く敬意を表するとともに、心より感謝申し上げます。

振り返れば、ここ数年はコロナ禍による制約からの回復期であり、対面とWeb方式を併用した新たな活動スタイルが定着しました。この方式は、会員の皆さまが状況に応じて参加しやすく、また財政負担を軽減しながら多くの事業を継続できる、有効な手段となっています。今後も対面とオンラインの強みを生かし、より活発で参加しやすい技師会活動を推進してまいりたいと思います。

会長としての任期も4年目を迎え、組織運営の中で「継承」の重要性をあらためて痛感しています。先達が築いてこられた事業基盤や運営の知恵は、本会にとってかけがえのない財産です。一方で、継続の中に留まるのではなく、新たな価値を生み出す改革も必要です。今年掲げた「承前啓後（しょうぜんけいご）」には、“過去を受け継ぎ、未来を切り開く”という本会の歩みに重なる精神があります。

特に教育活動においては、大きな節目の年を迎えます。長年、多くの修了者を輩出してきた告示研修は、本年度をもって一旦終了となりますが、これまで蓄積してきた知見と体制を生かし、次年度以降は東京開催も視野に入れながら、継続的な実施を模索してまいります。また、新たにスタートしたワクチン筋注行為に関する講習会については、医療現場のニーズに応える重要な取り組みとして位置づけ、より多くの会員が参加できるよう、精力的かつ継続的な開催を進めていく所存です。

新しい年の幕開けにあたり、皆さまそれぞれが抱く目標と共に、本会としても明確な歩みを重ねていきたいと考えております。伝統を守りながら、新しい未来を切り拓く「承前啓後」の精神のもと、今年も皆さまと共に“楽しみながら”技師会活動を進めてまいりたいと存じます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

告 示

公益社団法人東京都診療放射線技師会 2026・2027年度代議員及び予備代議員の立候補受付について

2026年1月1日

公益社団法人東京都診療放射線技師会
選挙管理委員会 委員長 小野 賢太

公益社団法人東京都診療放射線技師会 定款第12・13条並びに代議員及び予備代議員選出規程により、
2026・2027年度の代議員及び予備代議員の立候補受付を下記の通り行う。

記

選挙の実施内容：公益社団法人東京都診療放射線技師会の代議員および予備代議員

任 期：2026年4月1日～2028年3月31日

立 候 補 要 件：本会の会員であり、当該年度の会費を完納していること。

定 数：別表1参照

立候補受付期間：2026年1月1日（木・祝）から1月28日（水）17時00分まで（必着）

立候補届提出先：公益社団法人東京都診療放射線技師会 選挙管理委員会 宛
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションプラザタワー505号

投 票 方 法：代議員および予備代議員の選挙は、選挙管理委員会の管理のもと、立候補者が所属する
地区において郵送にて実施する。

選挙結果の告示：本会会誌で行う。

選 挙 の 日 時：2026年2月26日（木）17時00分まで（必着）

その他の必要事項については、本会のホームページ上に掲載する。

注 意 事 項：1) 立候補者は所属する地区委員長に対しても、立候補する旨を届け出ること（地区メー
ルアドレス：別表1参照）。

2) 立候補に必要な書類は、本誌6～7ページの様式10・11にて提出すること。

以上

(別表1)

2026・2027年度代議員及び予備代議員定数

地 区	代議員数	予備代議員数	メールアドレス	地 区	代議員数	予備代議員数	メールアドレス
第1地区	3	1	area01@tart.jp	第9地区	7	1	area09@tart.jp
第2地区	5	1	area02@tart.jp	第10地区	4	1	area10@tart.jp
第3地区	7	1	area03@tart.jp	第11地区	4	1	area11@tart.jp
第4地区	7	1	area04@tart.jp	第12地区	4	1	area12@tart.jp
第5地区	7	1	area05@tart.jp	第13地区	14	1	area13@tart.jp
第6地区	5	1	area06@tart.jp	第14地区	5	1	area14@tart.jp
第7地区	7	1	area07@tart.jp	第15地区	5	1	area15@tart.jp
第8地区	7	1	area08@tart.jp	第16地区	3	1	area16@tart.jp

※2025年9月30日現在の会員数(会員動向)を元にした代議員数

選挙管理委員会(2025年12月10日承認)

公益社団法人東京都診療放射線技師会 代議員及び予備代議員選出規程

(目 的)

第1条 この規程は、公益社団法人東京都診療放射線技師会定款（以下、「定款」という。）第13条に定める代議員及び予備代議員（以下、「代議員等」という。）選出のための選挙に関して規定する。

(選挙権)

第2条 定款第5条第1号により正会員として登録されたものは、この規程に定める選出につき選挙権を有する。

(被選挙権)

第3条 定款第13条第2項に定める代議員等に立候補する者は、正会員としての資格を有する者とする。
2 立候補する者は、当該年度の会費の完納者であること。

(立候補届)

第4条 代議員等に立候補する者は、地区委員長に申し出を行い、立候補届【様式10】、【様式11】に記載し、期日までに選挙管理委員会に届けなければならない。

(代議員等の選出)

第5条 代議員等の選出は2年に一度、1月から3月に行う。
2 代議員等の選出は、以下の各号による。
(1) 候補者が定数または定数に満たない場合は、無投票当選とする。
(2) 候補者が定数を超えた場合は、投票を行う。投票は、定数内連記投票とする。
(3) 当選は、定数内で白票を除く有効投票の上位得票順とする。
(4) 得票が同数の場合は、抽選等にて決定する。

(代議員及び予備代議員選挙の投票、開票及び立会人)

第6条 代議員等の選挙は、郵送またはそれに代わる手段にて投票を行う。
2 選挙管理委員会は投票締め切り後、立会人の立会いのもとに開票する。
3 立会人は、正会員の中から、選挙管理委員会が選任する。

(選挙結果の公表)

第7条 代議員等の選挙の結果については、選挙管理委員会が速やかに公表する。

(異議申立)

第8条 代議員等選挙の効力に対し、不服がある選挙人または候補者は、選挙管理委員会に異議を申し立てることができる。
2 異議申し立ての受付は、開票結果発表日から1週間以内とする。
3 異議申し立てに対しては、選挙管理委員会で協議する。

(代議員証の発行)

第9条 選挙管理委員会は、異議申し立て期間終了後速やかに代議員証を発行する。

(改 廃)

第10条 この規程の改廃は、理事会の決議によるものとする。

附 則

1 この規程は、平成29年6月18日から施行する。

公益社団法人東京都診療放射線技師会

代議員 立候補届

年 月 日

公益社団法人東京都診療放射線技師会
選挙管理委員長 殿

私は、_____・_____年度 公益社団法人東京都診療放射線技師会代議員選挙に立候補いたします。

つきましては、下記の通り立候補届を提出いたします。

記

所属地区：第 _____ 地区

氏 名（自署）：_____ 印

生年月日：昭 和 ・ 平 成 _____ 年 _____ 月 _____ 日（_____ 歳）

勤務先名：_____

自宅住所：〒 _____ ー _____

電 話：_____（ _____ ）_____

以上

選挙管理委員会受理 年 月 日

選挙管理委員長 印

公益社団法人東京都診療放射線技師会

予備代議員 立候補届

年 月 日

公益社団法人東京都診療放射線技師会
選挙管理委員長 殿

私は、_____・_____年度 公益社団法人東京都診療放射線技師会予備代議員選挙に立候補
いたします。

つきましては、下記の通り立候補届を提出いたします。

記

所属地区：第 _____ 地区

氏 名（自署）：_____ 印

生年月日：昭 和 ・ 平 成 _____ 年 _____ 月 _____ 日（_____ 歳）

勤務先名：_____

自宅住所：〒 _____ ー _____

電 話：_____（ _____ ）

以上

選挙管理委員会受理

年 月 日

選挙管理委員長

印

会 告 1

2026年「新春のつどい」のご案内

年初めの恒例となっております、本会主催による「新春のつどい」開催のご案内を申し上げます。新春を迎えるにあたり、日頃ご交誼を頂いております放射線関連・学校教育機構・関係諸団体・本技師会各位が一堂に会し、新年の抱負を語り、また、情報交換の場としてご歓談いただき、親交を深めていただきたいと存じます。お誘い合わせの上、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

開催日時：2026年1月9日（金）19時00分～20時30分

（受付開始18時30分より）

開催場所：「アートホテル日暮里ラングウッド」 2階 鳳凰の間

荒川区東日暮里5-50-5 Tel 03-3803-1234

交通：JR日暮里駅南口下車 徒歩約1分

- 次第：1) 開会のことば
2) 会長挨拶
3) 来賓挨拶
4) 乾杯
5) 懇親（名刺交換）
6) 閉会のことば



会費：5,000円

新卒かつ新入会員※の方は無料です。奮ってご参加ください。

問い合わせ：公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

※ 新卒かつ新入会員とは、技師学校卒業年に技師免許取得し本会へ入会した会員をいう。

第165回日暮里塾ワンコインセミナー（Web開催）

テーマ「学術委員が選んだ発表演題」

恒例となりました「学術委員が選んだ発表演題」をWeb開催いたします。学会に参加できなかった方、参加したけれどもう一度聞きたい方、多くの方の参加をお待ちしております。

演者：

- ・脳出血患者のフォローアップ頭部CTにおける被ばく線量低減の検討
東邦大学医療センター大橋病院 岡部智大
- ・造影剤注入方法の違いによる下肢深部静脈のCT値の比較
順天堂大学医学部附属練馬病院 河合 萌
- ・散乱線補正機能を使用したベッドサイド胸部X線撮影のEffective DQEを用いた最適線量の決定法
東京医科大学八王子医療センター 菊池 悟
- ・STAT画像報告における頭蓋内高吸収域検出アラートシステムの有用性
東京都立病院機構東京都立荏原病院 大森貴文
- ・X線TV検査における術者水晶体被ばく線量低減の検討
公立福生病院 中村颯希
- ・画像等手術支援加算の改訂に伴う、最適な術前CT画像の検討
社会医療法人財団大和会東大和病院 大野隆介
- ・複数コイルを用いたDWIBSにおけるstation間での輝度差を最小化するための最適WW/WL設定の検討
東海大学医学部附属八王子病院 三澤裕太郎
- ・Bony Strokeの診断に頸部回旋4DCTAが有用だった一例
杏林大学医学部附属病院 渡部翔太
- ・ワンショット長尺撮影システムにおけるFPD重なり部分の画像ズレに関する検討
順天堂大学医学部附属順天堂医院 原島大佑

オンライン開催では、セキュリティ対策としてパスワードを設置するなどして対策を講じます。不正利用などのリスクを回避するために、使用するWebソフトの最新バージョンをインストールのうえご参加ください。

記

日 時：2026年1月23日（金）18時30分～20時30分

開催方式：Web開催（Zoom）

定 員：100名（先着順）

受講料：無 料

申込方法：東放技ホームページ（<https://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、左下のQRコード、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

申込締切日：2026年1月20日（火）

問い合わせ：学術委員長 市川篤志 E-Mail：gakujitu@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上



2025年度実践集中講習会 —MRI装置/検査—（会場開催）

2025年度実践集中講習会—MRI装置/検査—を開催致します。

従来、MRI集中講習会として開催しておりましたが、本年度より開催名を一新して行います。

内容は従来を踏襲しており、基礎から臨床まで広範囲の講義を予定しております一方、磁気共鳴（MR）専門技術者取得を目標とした方向けに問題解説なども行います。

講義には、各講師の先生がまとめた専用のテキストに加え、東放技で出版したテキスト「MRI集中講習（改定版）2,000円」も使用します。（参加者には当日無料配布）

多くの方の参加をお待ちしております。

～ プログラム ～

10:00～11:30	【基本測定】 スライス厚測定、T1,T2測定法、均一性 試験方法、SNR／CNRの測定方法	東京慈恵会医科大学附属第三病院 北川 久
12:15～13:45	【各論】 原理（基礎）、パルスシーケンスおよび高 速撮像法（試験対策含む）	東京医科大学病院 林 直弥
13:55～15:25	【各論】 アーチファクト、脂肪抑制（試験対策含む）	昭和大学藤が丘病院 秋葉 泰紀
15:35～17:05	【各論】 MR安全管理、臨床（試験対策含む）	国立国際医療研究センター病院 石田 貴廣

記

日 時：2026年1月25日（日）9時55分～17時05分（受付開始9時30分～）

場 所：公益社団法人東京都診療放射線技師会研修センター

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションプラザタワー505

ア ク セ ス：JR日暮里駅北口改札 東口方面より徒歩3分

開 催 方 式：会場開催

定 員：40名（先着順）

受 講 料：会員 2,000円、非会員 10,000円

申 込 方 法：東放技ホームページ（<https://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、左下のQRコード、
または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

申込締切日：2026年1月24日（土）

問い合わせ：教育委員長 市川重司 E-Mail：kyoiku@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724



以上

第166回日暮里塾ワンコインセミナー（Web開催）

テーマ「救急時のX線撮影－そうだったのか救急撮影－」

講師：武蔵村山病院 放射線科 森 剛 氏

今回は「救急時のX線撮影－そうだったのか救急撮影－」としてお送りいたします。救急撮影の初期におけるX線撮影は重要で、その役割は非常に大きいと思います。次の日から使える知識をお届けしたいと思います。

多くの方の参加をお待ちしております。

オンライン開催では、セキュリティ対策としてパスワードを設置するなどして対策を講じます。不正利用などのリスクを回避するために、使用するWebソフトの最新バージョンをインストールのうえご参加ください。

ご参加の際は必ず申込者名でご入室ください。申込者名でない場合はご退出いただく場合があります。本セミナーの映像、配布資料などの録音、録画（キャプチャを含む）、再配布は禁止と致します。

記

日 時：2026年1月27日（火）19時00分～20時30分（受付開始18時30分～）

開催方式：Web開催（Zoom）

定 員：100名（先着順）

受講料：会員 500円、非会員 3,000円、新卒かつ新入会員※、一般ならびに学生 無料

申込方法：下記のURLまたはQRコードよりお申し込みください。

会員、非会員用（有料）

申込URL

https://eventpay.jp/event_info/?shop_code=3967236673917779&EventCode=P724765027



※セミナー参加費はカード決済後、欠席された場合でも払い戻しはいたしかねます。

何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。

申込締切日：2026年1月20日（火）

問い合わせ：教育委員長 市川重司 E-Mail：kyoiku@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

※ 新卒かつ新入会員とは、技師学校卒業年に技師免許取得し本会へ入会した会員をいう。

第23回ウインターセミナー（会場開催）

テーマ「消化管画像検査のUpdate ～（腸）識を深める！～」

講師：メーカー情報提供：富士フイルムメディカル株式会社 廣谷 賢二 氏
 炎症性疾患：JCHO東京山手メディカルセンター 多々良 直矢 氏
 急性疾患：東京医科大学病院 岡本 淳一 氏
 悪性疾患：メディサイエンスプランニング 大塚 竜登 氏

「この検査、何のためにやってるんだろう？」「この画像、どこを見ればいいのか分からない…」「誰かに聞きたいけど、今さら聞きにくい…」そんな風に感じたことはありませんか？

今回のセミナーでは、消化管疾患の検査について、日常業務に即した形で「基礎から臨床応用」までを分かりやすく解説します。

対象は、医療現場に入って間もない若手の方や、異動してきたばかりで検査や画像にまだ慣れていない方。明日から使える視点や知識と一緒に整理していきます。

記

日 時：2026年1月31日（土）15時00分～17時30分（受付開始14時30分～）

場 所：JR東京総合病院 e棟4階会議室

〒151-8528 東京都渋谷区代々木2-1-3

ア ク セ ス：JR新宿駅南改札・甲州街道改札・新南改札より徒歩5分

小田急線 新宿駅南口改札より徒歩5分

京王新線 新宿駅・都営大江戸線新宿駅「A1」出口より徒歩1分

開 催 方 式：会場開催

定 員：100名（先着順）

受 講 料：会員 1,000円、非会員 5,000円

新卒かつ新入会員* 一般ならびに学生 無料

申 込 方 法：東放技ホームページ (<https://www.tart.jp/>) の参加申し込みフォーム、左下のQRコード、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

申込締切日：2026年1月27日（火）

当日参加も募集いたします。

問い合わせ：学術委員長 市川篤志 E-Mail: gakujitu@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724



以上

※ 新卒かつ新入会員とは、技師学校卒業年に技師免許取得し本会へ入会した会員をいう。

2025年度 多摩支部研修会（Web開催）

テーマ「STAT画像所見報告の現状と実症例から学ぶ画像を見る力」

①STAT画像所見報告体制の構築

講師：市立青梅総合医療センター 放射線科 藤原 功規 氏

②実例をもとにした画像確認と対応

講師：公立昭和病院 放射線科 吉村 良 氏

2024年、「診療放射線技師へのタスク・シフト／シェアのためのガイドライン」が発表されました。

ご存知の通り、STAT画像とは、生命予後に関わる緊急性の高い疾患が疑われる画像を指し、診療放射線技師が撮影直後に異常所見を認識し、速やかに医師へ報告する体制が求められています。

しかしながら、報告体制の整備状況や運用方法、読影支援の質には施設間で差があり、「誰が・いつ・どのように」報告するかという基本的な仕組みも、未だ模索中の部分が多く見受けられます。

本企画では、STAT画像所見報告の「現状」と「課題」を共有し、症例を通じて実践的な対応力を高めることを目的としています。今後の運用改善や教育体制の構築に向けた議論のきっかけとなる研修会だと思っております。

多くの方々のご参加をお待ちしております。

オンライン開催では、セキュリティ対策としてパスワードを設置するなどして対策を講じます。不正利用などのリスクを回避するために、使用するWebソフトの最新バージョンをインストールのうえご参加ください。

ご参加の際は必ず申込者名でご入室ください。申込者名でない場合はご退出いただく場合があります。

本セミナーの映像、配布資料などの録音、録画（キャプチャを含む）、再配布は禁止と致します。

記

日 時：2026年2月19日（木）19時00分～20時15分

開催方式：Web開催（Zoom）

定 員：100名（先着順）

受講料：無 料

申込方法：東放技ホームページ（<https://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、左下のQRコード、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

申込締切日：2025年2月14日（土）

問い合わせ：多摩支部委員会 E-Mail：shibu_tama@tart.jp

第13地区委員長（多摩支部委員長） 鮎川幸司

第12地区委員長 吉村 良

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724



以上



第20回ペイシェントケア学術大会 テーマ「つながり、支え合う医療を目指して」

午前中は一般演題を実施し、ランチョンセミナーでは「震災から15年」を振り返ります。午後には特別講演、教育講演、そして都民公開講座を企画しております。

本大会は、診療放射線技師としての知識と技術を一層深め、患者様の利益と満足度の向上につなげることを目的として開催いたします。実行委員一同、皆さまにとって有意義な大会となるよう、全力で準備を進めております。

本大会を通じて、多くの皆さまと貴重な情報を共有できますことを、心より願っております。

※大会参加者のうち希望される方を対象に、「ワクチン筋注行為に関する実技講習会」を開催いたします。

詳細は右記をご参照ください。 https://www.jart.jp/news/topics/20251016_1584.html

記

日 時：2026年2月28日（土）9時00分～16時15分

場 所：一橋大学 一橋講堂 2階 中会議室

〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋2-1-2

ア ク セ ス：東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線 神保町駅（A8・A9 出口）徒歩4分

東京メトロ東西線 竹橋駅（1b 出口）徒歩4分

定 員：200名 ※当日参加は可能ですが、ランチョンセミナーを開催するためフードロス削減にご理解をいただくとともに、一週間前までの事前登録をお願いいたします。

受 講 料：診療放射線技師 2,000円、一般・学生・その他医療従事者 無料

申 込 方 法：東放技ホームページ (<https://www.tart.jp/>) の参加申し込みフォーム、左下のQRコード、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

申込締切日：2026年2月28日（土）

問い合わせ：学術委員長 市川篤志 E-Mail：gakujitu@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上



～ プログラム ～

09:00 受付開始

09:30～09:40 開会式

【開会のあいさつ】 東京都診療放射線技師会 会長 江田 哲男

09:45～11:50 一般演題 会場1 会場2

【座長】 東京都診療放射線技師会 学術委員会

12:05～13:10 ランチョンセミナー

【座長】 東京都診療放射線技師会 学術委員長 市川 篤志

「たんぼぼプロジェクトに参加して」

【講師】 国立病院機構 渋川医療センター 立木 崇文

「2011.3.11を忘れないために～福島第一原子力発電所事故～」

【講師】 東京都診療放射線技師会 教育委員長 市川 重司

13:20～14:05 特別講演（入会促進委員会企画）

【座長】 東京都診療放射線技師会 副会長 関 真一

「入会促進活動を通して繋がりを広げ、そして医療へ」

【講師】 東京都診療放射線技師会 入会促進委員長 中尾 愛

「Z世代診療放射線技師をどう育てるか～世代をつなぐ教育と心理学の視点から」

【講師】 杏林大学 保健学部診療放射線学科 森 美加

14:15～15:00 教育講演（国際委員会企画）

【座長】 東京都診療放射線技師会 副会長 野口 幸作

「国際委員会活動について」

【講師】 東京都診療放射線技師会 国際委員長 桐 洋介

「海外発表の第一歩」

【講師】 赤坂山王メディカルセンター 渡邊 真弓

15:10～16:00 都民公開講座

「“遊び”と“学び”で変える小児医療～子どもと家族に寄り添うNPOの取り組み～」

【座長】 東京都診療放射線技師会 会長 江田 哲男

【講師】 NPO法人 Medical PLAY 村田 渉

16:00～16:15 閉会式

【閉会のあいさつ】 東京都診療放射線技師会 副会長 浅沼 雅康

※大会参加者のうち希望される方を対象に、『ワクチン筋注行為に関する実技講習会』を開催いたします。
詳細は右記をご参照ください。 https://www.jart.jp/news/topics/20251016_1584.html

～ 一般セッションプログラム ～

一般セッション1（口述発表）第1会場：業務改善・接遇 09:45～10:45

座長：公立昭和病院 圓城寺純至

座長：東邦大学医療センター大橋病院 皆川 智哉

- 1 渋谷区・港区における若手診療放射線技師連携による将来像の明確化 北里研究所病院 秦 広弥
- 2 北多摩における診療放射線技師の勤務管理に関するアンケート報告 公立昭和病院 五十嵐弘樹
- 3 整形外科クリニックでの業務改善と経営貢献の取り組み ぜんしん整形外科 清水 賢均
- 4 知りたい！教えたい！患者接遇 独立行政法人国立病院機構 東京医療センター 齋藤 郁里
- 5 胸部単純撮影での掲示物を用いた更衣説明のわかりやすさ向上を目指した取り組み
東京都健康長寿医療センター 石田 奨
- 6 放射線被曝相談に対応するチャットボットの活用とその可能性について 自衛隊中央病院 山内茉莉恵

一般セッション3（口述発表）第1会場：医療安全 10:50～11:50

座長：東京医科大学病院 岡本 淳一

座長：JCHO東京山手メディカルセンター 多々良直矢

- 7 造影CT検査における血管外漏出に対する予防策と造影剤漏れ検知システムの使用経験について
関東労災病院 元島 祐介
- 8 MRI検査での造影剤アレルギー発生時に備えたシミュレーション実施と参加者アンケートによる有用性の評価
東邦大学医療センター大森病院 大津 元春
- 9 検査施行上、考慮が必要なデバイス植込みまたは装着患者に対する検査運用について
日本大学病院 釘井 玲雄
- 10 当院における医療安全の取り組み 公立福生病院 医療技術部 山中 真悟
- 11 移乗介助具の違いにおける快適度および安全性の検討 東邦大学医療センター大橋病院 渡邊 里彩
- 12 造影剤副作用における初期対応訓練の取り組みと評価 JCHO東京山手メディカルセンター 横手 修平

一般セッション2（口述発表）第2会場：技術報告 09:45～10:45

座長：慶応義塾大学病院 南島 一也

座長：日本大学医学部附属板橋病院 比内 聖紀

13 フォトンカウンティングCTにおける仮想単純画像の特性評価 東京科学大学病院 吉田光一郎

14 Dual Energy Computed Tomographyにおける被ばく低減の為の基礎的検討

博慈会記念総合病院 佐久間啓太

15 当院での不整脈治療における画像手術支援の取り組み 東京医科大学八王子医療センター 上澤 敦

16 DRL2025に基づく循環器用X線診断装置の線量評価と最適化への取り組み

東京科学大学病院 岩崎 雄亮

17 当院における胸部X線画像診断支援AIの使用経験

公立福生病院 永野 敬悟

18 再撮影低減を目指して

東川口病院 小川 翼

一般セッション4（口述発表）第2会場：運用

10:50～11:50

座長：ニューハート・ワタナベ国際病院 小川 茂行

座長：東京臨海病院 寺嶋 元一

19 当院における心臓カテーテル検査でのタスク・シフト/シェアの取り組み

松戸市立総合医療センター 工藤 周耶

20 本院における心臓カテーテル室の新人教育プログラムについて

東京医科大学病院 井関理南子

21 当院で行っている既読・未読システムを用いた読影所見の確認漏れ対策と緊急・重要所見の対応

医療法人社団哺育会 浅草病院 大河内 賢

22 当院における報告書管理体制加算に関わる診療放射線技師の役割

東京都医療保健協会 練馬総合病院 澤田 恒久

23 画像サーバー故障時の対応

京葉病院 富丸 佳一

24 生殖腺遮蔽に関する施設間の実態調査

JCHO東京山手メディカルセンター 神山 和明

第20回 ペイシエントケア学術大会

テーマ：つながり、支え合う医療を目指して

- ・一般演題（第1会場・第2会場）
【座長】 東京都診療放射線技師会 学術委員会
- ・ランチョンセミナー
【座長】 東京都診療放射線技師会 学術委員長 市川 篤志
「たんぽぽプロジェクトに参加して」
【講師】 渋谷医療センター 立木 崇文
「2011.3.11を忘れないために～福島第一原子力発電所事故～」
【講師】 東京都診療放射線技師会 教育委員長 市川 重司
- ・特別講演
【座長】 東京都診療放射線技師会 副会長 関 真一
「入会促進活動を通して繋がりを広げ、そして医療へ」
【講師】 東京都診療放射線技師会 入会促進委員長 中尾 愛
「Z世代診療放射線技師をどう育てるか～世代をつなぐ教育と心理学の視点から」
【講師】 杏林大学 保健学部診療放射線学科 森 美加
- ・教育講演
【座長】 東京都診療放射線技師会 副会長 野口 幸作
「国際委員会活動について」
【講師】 東京都診療放射線技師会 国際委員長 桐 洋介
「海外発表の第一歩」
【講師】 赤坂山王メディカルセンター 渡邊 真弓
- ・都民公開講座
【座長】 東京都診療放射線技師会 会長 江田 哲男
「“遊び”と“学び”で変える小児医療～子どもと家族に寄り添うNPOの取り組み～」
【講師】 NPO法人 Medical PLAY 村田 渉

※大会参加者のうち希望される方を対象に、『ワクチン筋注行為に関する実技講習会』を開催いたします。
詳細は右記をご参照ください。 https://www.jart.jp/news/topics/20251016_1584.html

参加費：診療放射線技師 2,000円

一般・他職種 無料

当日参加も可能ですが事前登録をお願いいたします

開催日：2026年2月28日（土）

9：00～16：15

場 所：一橋大学 一橋講堂 2階中会議室

〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋2-1-2

お問い合わせ

公益社団法人 東京都診療放射線技師会事務所

TEL 03-3806-7724 Mail : gakujitu@tart.jp

主催：公益社団法人 東京都診療放射線技師会



都民公開講座

第20回 ペイシェントケア学術大会

テーマ：つながり、支え合う医療を目指して

参加費：一般および他職種 無料

※診療放射線技師参加費：2,000円

開催日 2026年2月28日（土）

開場 15：00

【時間】 15：10～16：00

“遊び”と“学び”で変える小児医療
～子どもと家族に寄り添うNPOの取り組み～

【講師】 NPO法人 Medical PLAY
村田 渉 先生

会場：一橋大学 一橋講堂 2階 中会議室
〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋2-1-2

アクセス：東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線 神保町駅
(A8・A9 出口) 徒歩4分
東京メトロ東西線 竹橋駅 (1b 出口) 徒歩4分

お問い合わせ 公益社団法人 東京都診療放射線技師会事務所
TEL 03-3806-7724 Mail : gakujitu@tart.jp

主催 公益社団法人 東京都診療放射線技師会





2026年度定期総会での表彰（勤続20年）について

渉外委員会

本会は2026年6月に行われる、公益社団法人東京都診療放射線技師会 定期総会において、本会表彰規程により労働精励賞の表彰を行います。

本年度資格到達者は本会で調査し、対象になった会員の方にはすでに案内を発送しております。調査漏れが生じることもありますので、下記に該当される方で、未だ本会より連絡のない方、または前年度までに資格到達された方で受賞の意思のある方は、お手数ですが2026年1月15日までに下記問い合わせ先までご連絡くだされば幸甚に存じます。

規程内容要旨：

- (1) 今回の該当者は2006年3月31日までに、診療放射線技師の免許を取得し、技師業務に20年以上従事した方が対象である。
- (2) 2012年3月31日以前に入会し、引き続き本会会員であって、会費を完納していること。（15年以上継続会員）
- (3) 現在正会員であり、引き続き2026年度も会員であること。

問い合わせ：渉外委員長 高野修彰 E-Mail：shougai@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

2025年度 第9地区研修会（Web開催）

テーマ「診療放射線技師のキャリア&ライフ ～仕事とプライベート、多忙でもバランスよく両立するには～」

講 師：茨城県立医療大学 保健医療学部 放射線技術科学科 曾我部 和美 氏

現代では、医療現場でも働き方改革が進み、診療放射線技師も仕事と私生活のバランスを重視する傾向が強まっています。診療放射線技師は専門性が高く、キャリアの選択肢も多様です。忙しい業務に追われる中で、プライベートの充実が疎かになると、心身の不調や離職につながることもあります。この研修会を通じて、実際に両立を実現している技師の体験談や工夫を聞くことで、将来のキャリアパスやスキルアップの方法を共有し、自分の働き方を見直すきっかけになればと考えます。多くの方のご参加をお待ちしております。

オンライン開催では、セキュリティ対策としてパスワードを設置するなどして対策を講じます。不正利用などのリスクを回避するために、使用するWebソフトの最新バージョンをインストールのうえご参加ください。

ご参加の際は必ず申込者名でご入室ください。申込者名でない場合はご退出いただく場合があります。
本セミナーの映像、配布資料などの録音、録画（キャプチャを含む）、再配布は禁止と致します。

記

日 時：2026年1月22日（木）19時00分～20時00分（受付開始18時30分～）

開催方式：Web開催（Zoom）

定 員：50名（先着順）

受講料：無 料

申込方法：東放技ホームページ（<https://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、左下のQRコード、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

申込締切日：2026年1月15日（木）

問い合わせ：第9地区委員長 西郷洋子 E-Mail：area09@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上



お知らせ 2

2025年度 第15地区研修会（会場開催）

テーマ「AI時代のシン常識 ～新たな価値の創出～」

講 師：帝京大学 医療技術学部 診療放射線学科 准教授 伊東 利宗 氏

近年、Chat GPTに代表される「AI」が急速に普及し、医療分野でも活用が広がりつつあります。

しかし、「AIがどのように動いているのか」「どのようなデータで作られているのか」など、基本的な仕組みは意外と知られていません。

本研修会では、AIや大規模言語モデル（LLM）の基礎を分かりやすく解説致します。更に、放射線業務の中でどのような場面に応できるのか紹介致します。

AIを初めて学ぶ方でも理解できる内容になっておりますので、是非気軽にご参加ください。

記

日 時：2026年1月23日（金）19時00分～20時40分（受付開18時30分～）

場 所：高津市民館 第5会議室

〒213-0001 神奈川県川崎市高津区溝口1-4-11

ア ク セ ス：JR南武線 武蔵溝ノ口駅より 徒歩1分、東急田園都市線 溝の口駅より徒歩1分

開 催 方 式：会場開催

定 員：50名（先着順）

受 講 料：診療放射線技師 500円

新卒かつ新入会員*、一般ならびに学生：無料

申 込 方 法：東放技ホームページ (<https://www.tart.jp/>) の参加申し込みフォーム、左下のQRコード、
または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

申込締切日：2026年1月22日（木）

問い合わせ：第15地区委員長 宮下麻依 E-Mail：areal5@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

※ 新卒かつ新入会員とは、技師学校卒業年に技師免許取得し本会へ入会した会員をいう。



2025年度 第8地区研修会（会場開催）

テーマ「一般撮影を再発掘してみた」

講 師：IMSグループ 明芳会イムス葛飾ハートセンター 米澤 俊和 氏

本年度の第8地区研修会は、一般撮影に関する講義を企画しました。様々な研究会等でご活躍されておりますイムス葛飾ハートセンターの米澤俊和先生を講師にお招きし、一般撮影を多角的な視点で捉え考えられた撮影や気付かなかった撮影に関するコツなどを伝授していただきます。皆様の一般撮影に対する考え方が良い方向に変化していただける良い機会と考えております。

ご施設でもお声がけいただき、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

本会終了後に情報交換会を企画しております。参加希望の方は参加申し込みフォームの備考欄に【参加希望】と入力してください。

記

日 時：2026年2月14日（土）16時00分～17時15分

場 所：東邦大学医療センター大森病院 臨床講堂（5号館地下1階）
東京都大田区大森西6-11-1

ア ク セ ス：京浜急行線 梅屋敷駅から徒歩約7分（各駅停車にご乗車ください）

JR蒲田駅からバス約4分

（東口2番バス乗り場から「大森駅」行きに乗車「東邦大学」下車）

JR大森駅からバス約12分

（東口1番バス乗り場から「蒲田駅」行きに乗車「東邦大学」下車）



広域地図



周辺地図

定 員：50名

受 講 料：会員 500円、非会員 1,000円

新卒かつ新入会員*、一般ならびに学生 無料

申 込 方 法：東放技ホームページ（<https://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム。

申込締切日：2026年2月13日（金）

問い合わせ：第8地区委員長 大津元春 E-Mail：area08@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

※ 新卒かつ新入会員とは、技師学校卒業年に技師免許取得し本会へ入会した会員をいう。

お知らせ 4

2025年度 第12地区研修会（Web開催）

テーマ「不整脈に対するデバイス治療 ～診療放射線技師が知っておきたい基礎知識～」

講 師：社会医療法人財団 大和会 東大和病院 臨床工学室 西原 圭一郎 氏

皆さまは業務中に心電図モニタの画面をちらっと見て、「心拍数がずっと同じ数値の60で安定しているな。ペースメーカでも入っているのかな？」と横目にする経験はないでしょうか？

その他にも、胸部レントゲンやMRIの体内金属チェックなど、臨床現場で数多くの心臓植込み型デバイスを目にする機会があると思います。

近年、不整脈に対する心臓植込み型デバイスの種類や機能も多様化し、画像検査部門においても安全管理や適切な対応が求められています。本講演では、その中でも代表的な治療であるペースメーカを中心に、ICDやCRTなどデバイスの適応や特徴、MRI対応機種についての注意点など、日常業務に直結する内容を中心に臨床工学士の立場からわかりやすく解説していただきます。

今回の講義は心電図波形を中心とした内容ではなく、その一歩先にある“不整脈に対するデバイス治療”の基礎講義となります。

是非、新人の方からベテランの方まで、多くの方々のご参加をお待ちしています。

オンライン開催では、セキュリティ対策としてパスワードを設置するなどして対策を講じます。不正利用などのリスクを回避するために、使用するWebソフトの最新バージョンをインストールのうえご参加ください。

ご参加の際は必ず申込者名でご入室ください。申込者名でない場合はご退出いただく場合があります。
本セミナーの映像、配布資料などの録音、録画（キャプチャを含む）、再配布は禁止と致します。

記

日 時：2026年3月3日（火）19時00分～20時00分

開催方式：Web開催（Microsoft Teams）

定 員：100名

受講料：無 料

申込方法：東放技ホームページ（<https://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、左下のQRコード、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

申込締切日：2026年2月20日（金）20時00分

問い合わせ：第12地区委員長 吉村 良 E-Mail：areal2@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724



本イベントは月初開催のため、開催月である3月号に掲載されません。
今号またはホームページをご覧ください。

以上

2025年度 第6地区研修会（ハイブリッド開催）

テーマ「上部消化管造影検査の基礎と応用」

講 師：東葛病院 安藤 健一 氏

上部消化管造影検査を取り巻く環境は大きく変化しています。専門読影医の不足や、撮影を担う私たち診療放射線技師の高齢化・人手不足が進む中、「質の高い検査レベルをいかに維持し、向上させるか」が喫緊の課題となっています。本研修会では、この課題に応えるべく、東葛病院の安藤健一氏をお招きし、単なる技術論に留まらない、実践的かつ未来志向の内容でご講演いただきます。変化する医療現場において、私たち技師に求められる役割を再確認し、専門性を高める絶好の機会です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

オンライン開催では、セキュリティ対策としてパスワードを設置するなどして対策を講じます。不正利用などのリスクを回避するために、使用するWebソフトの最新バージョンをインストールのうえご参加ください。

ご参加の際は必ず申込者名でご入室ください。申込者名でない場合はご退出いただく場合があります。
本セミナーの映像、配布資料などの録音、録画（キャプチャを含む）、再配布は禁止と致します。

記

日 時：2026年3月6日（金）19時00分～20時30分（受付開始18時30分～）

場 所：公益社団法人東京都診療放射線技師会研修センター

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションプラザタワー505

ア ク セ ス：JR日暮里駅北口改札 東口方面より徒歩3分

開 催 方 式：ハイブリッド開催（Zoom）

定 員：現地参加 20名 Web参加 80名（先着順）

受 講 料：診療放射線技師 500円

新卒かつ新入会員*、一般ならびに学生 無料

申 込 方 法：東放技ホームページ（<https://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、下記URLまたは下記QRコードよりお申し込みください。

https://eventpay.jp/event_info/?shop_code=3967236673917779&EventCode=P689408016



申込締切日：2026年2月28日（土）

問い合わせ：第6地区委員長 伊佐理嘉 E-Mail：area06@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

※ 新卒かつ新入会員とは、技師学校卒業年に技師免許取得し本会へ入会した会員をいう。

叙勲 瑞宝双光章 受章



(公社) 東京都診療放射線技師会 理事

いちかわ しげじ
市川 重司

昭和33年11月25日生 (66歳)

【経 歴】

昭和60年 3月31日	東京都診療放射線技師専門学校	卒業
昭和60年 6月10日	診療放射線技師免許	取得
平成29年 3月31日	鈴鹿医療科学大学大学院 (修士課程)	修了
令和 5年 3月31日	鈴鹿医療科学大学大学院 (博士課程)	修了

【職 歴】

昭和60年 4月～昭和63年12月	埼玉医科大学附属病院
昭和64年 1月～平成13年 3月	東京都国民保険団体連合会福生病院 勤務 (平成13年4月公立福生病院へ移管)
平成13年 4月～平成18年 3月	公立福生病院 医療部放射線科 主任
平成18年 4月～平成25年 3月	公立福生病院 医療部放射線科 主査
平成25年 4月～平成26年 3月	公立福生病院 医療部放射線科 課長補佐
平成26年 4月～平成28年 3月	公立福生病院 医療部放射線科 科長
平成28年 4月～令和 2年 3月	公立福生病院 医療技術部長
令和 2年 4月～令和 6年 3月	国際医療福祉大学 教授 勤務
令和 6年 4月～ 現在	城西放射線技術専門学校 勤務

【団体歴】

平成14年 4月～令和 4年 6月	(社) 東京都放射線技師会 理事
	(現 (公社) 東京都診療放射線技師会)
令和 6年 6月～ 現在	(公社) 東京都診療放射線技師会 理事

【賞罰歴】

平成 7年	(社) 日本放射線技術学会関東部会 学術奨励賞
平成11年	(社) 東京都放射線技師会 学術奨励賞
平成18年	(社) 日本放射線技術学会関東支部 学術奨励賞
平成22年	東京都福祉保健局長 感謝状
平成23年	(社) 日本放射線技術学会 優秀演題賞
令和 2年	(公社) 日本診療放射線技師会 地域功労賞
令和 4年	厚生労働大臣表彰 (診療放射線業務功労)
令和 6年	(公社) 東京都診療放射線技師会 特別功労賞

瑞宝双光章受章にあたり

市川重司

令和7年11月3日付けにて、公益社団法人東京都診療放射線技師会のご推薦を賜り、瑞宝双光章を受章いたしました。同月5日には都庁にて伝達式に臨み、同月28日には皇居宮殿にて天皇陛下に拝謁の栄を賜りましたことをご報告申し上げます。身に余る光栄であり、これまでの歩みを振り返りながら、深い感慨を覚えております。

診療放射線技師として長年にわたり国民医療の一端を担い、微力ながら社会に寄与できたことは、私にとってかけがえのない経験であり、このたびの受章はその積み重ねを認めていただいたものと受け止めております。江田哲男会長、高野修彰理事（渉外）をはじめ、技師会の諸先輩方、多くの役員の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

今回の栄誉は決して私一人の力によるものではなく、日々共に働く職場の仲間、技師会の役員・委員の方々、そして常に支えてくれた家族の存在があってこそ得られたものと痛感しております。

昭和60年に免許を取得して以来、医療現場に身を置き、患者と向き合い、日々研鑽を積んでまいりました。令和2年からは技師教育の舞台に立ちました。その間、技師会会務に携わり、多くのことを学び、多くの方々と交流をもつことができました。また学術研究においてもご指導ご協力をいただき、多くの研究成果を出すに至りました。これらすべてが私の大きな財産となっております。

技術・技能は人を支え、社会を動かす大きな力であり、その重要性を改めて実感しております。今後は、これまで培ってきた知識と経験を活かし、若手技師の育成や技術の継承に一層力を注ぎ、医療の発展に寄与してまいりたいと考えております。

末筆ながら、これまでご指導ご鞭撻を賜りました諸先輩方をはじめ、関係各位のご健勝とご多幸、そして東京都診療放射線技師会のさらなる発展を心より祈念申し上げ、御礼のご挨拶とさせていただきます。

市川重司先生 瑞宝双光章ご受章 祝辞

会長 江田哲男

このたび会員である市川重司先生が本会からの推薦により、令和7年秋の叙勲「瑞宝双光章」を受章されましたことをご報告するとともに、心よりお祝い申し上げます。

市川先生におかれましては、平成14年より令和4年6月まで長年にわたり本会理事としてご尽力いただき、令和6年から再び理事として本会の教育活動を力強くご支援いただいております。特に「日暮里塾ワンコインセミナー」「MRI集中講習会」など、先生のご企画による多くの研修会は継続的に発展し、今や多くの参加者を惹きつける魅力ある事業へと成長しております。さらに、MRI集中講習会テキストや医学略語辞書の刊行を通じ、教育の発展にも大きく寄与されました。

また、令和3年には第37回日本診療放射線技師学術大会+ AACRT + EACRTの大会実行委員長として指揮にあたり、コロナ感染拡大渦の中、Webを利用したハイブリッド開催を日本診療放射線技師学術大会として初めて実現させております。

中でも、2011年3月に発生した東日本大震災の際には、福島第一原子力発電所事故に伴う被災者のサーベイ活動の第一陣として自ら志願され、全国から終結した12名の一人として福島に赴き、被災住民のサーベイ活動に尽力され、その後の報告会や啓発活動により放射線理解の促進にも大きく貢献されました。

これらの功績が称えられ、平成22年に東京都福祉保健局長から感謝状が授与され、令和2年に日本診療放射線技師会から地域功労賞を授与、そして令和4年に厚生労働大臣表彰を授与されています。

この度の市川先生のご受章は、診療放射線技師としてのご活躍が国民に対し、大きく寄与されたことが高く評価されたものと考えます。今後も市川先生の益々のご健勝をお祈りするとともに今後も本会への更なるご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2026年

新春座談会



江田哲男

会長



笹沼和智

放射線相談委員長



桐 洋介

国際委員長



中尾 愛

入会促進委員長

岩井編集委員長：明けましておめでとうございます。

一同：おめでとうございます。

岩井編集委員長：これより2026年新春座談会を開催させていただきます。司会進行を務めます編集長の岩井です。よろしくお願いします。

まず初めに、江田会長、よろしくお願いします。

江田会長：新年明けましておめでとうございます。

本日は大変ご多忙の中、2026年新春座談会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

本日は、国際委員会、放射線相談委員会、そして入会促進委員会の3つの委員会の委員長の方々にお集まりいただきました。新しい年明けとともに、今年の抱負と、今後の委員会活動などについて、皆さまと懇談しながら理解を深めたいと思いますので、どうぞ本日もよろしくお願いします。

一同：よろしくお願いします。

岩井編集委員長：江田会長、ありがとうございます。

続きまして、委員長の皆さまよりごあいさつをいただきます。国際委員会、桐委員長、お願いします。

桐国際委員長：国際委員会で委員長を務めていま



岩井譜憲

編集委員長

す桐洋介といいます。本日はどうぞ皆さま、よろしくお願いします。

岩井編集委員長：続きまして、放射線相談委員会、笹沼委員長、お願いします。

笹沼放射線相談委員長：明けましておめでとうございます。放射線相談委員会の笹沼です。よろしくお願いします。

岩井編集委員長：次に、入会促進委員会、中尾委員長、お願いします。

中尾入会促進委員長：入会促進委員長の中尾と申します。よろしくお願いします。

岩井編集委員長：ありがとうございます。それでは、この特別委員会設置の背景を江田会長よりお話しいただき、その後、各委員会より昨年の活動報告、振り返りをお願いします。では、江田会長、よろしくお願いします。

江田会長：この3つの委員会は、まだ、設置され

てから3年ほどしか経っていない委員会です。放射線相談委員会は、以前から、笹沼委員長が長きにわたって本会に問い合わせのある被ばく相談などについて、丁寧な回答などを実施してきました。その中で、被ばく相談だけではなく、医療放射線線量管理なども実施することを目的にこの委員会名としています。現在は、被ばく相談が主となっていますが、実は医療放射線被ばく管理の相談も担当していることを広めてもらえればと思っています。

次に、国際委員会ですが、こちらは以前からソウル特別市放射線士会と学術交流契約を締結して、互いの学術大会への参加、発表を実施してきました。しかし、委員会としての設置がなかったために、今回あらためて、企画や運営を実施していきたいということで、委員会を設置しています。活動としては2年ほどたちますけれども、この間、互いの交流を図るのみではなく、ワンコインセミナーなどで会員に海外発表の楽しさや方法などもレクチャーしてもらっています。そのような活動も含めて、今年度はSRTA学術大会への発表エントリーが5演題ありました。こちらについても、成果が上がっていると考えています。今後も、例えば海外発表の楽しさや英文スライドの作り方などを、会員に向けてレクチャーしてもらえればと思います。

最後に、3つ目の入会促進委員会についてです。こちらは多くの活動を実施しています。3,000名の会員目標に向けて現在、活動を行っていますが、現在の会員数が2,800名以上になっています。私が会長を拝命した時は2,200名ほどの会員だったという記憶があります。これも入会促進委員会が中心となって、また各地区や各委



員会を巻き込んで活発に活動した成果だと感じています。今後は新たな入会促進に向けて新しい企画も提案してもらえるといいと思います。

以上が背景と希望です。

岩井編集委員長：ありがとうございます。

それでは、放射線相談委員会、笹沼委員長、お願いします。

笹沼委員長：私は2011年から東京都診療放射線技師会に寄せられる被ばく相談に対応させていただいておりました。先ほど江田会長が言われたように、2022年に東京都診療放射線技師会の中に、放射線全般の相談に対応する委員会として発足して、現在、6名の委員で活動しております。昨年の活動としては、都民の皆さまからの被ばく相談をはじめとする様々な相談に回答するとともに、学術委員会の市川委員長にご協力いただき、ワンコインセミナーとして、放射線相談に対応する上で大切にしてきたこと、また、放射線相談で知っておくべき線量の基礎についての講習会を開催しました。

岩井編集委員長：笹沼委員長、ありがとうございます。

続きまして、国際委員会、桐委員長、お願いします。

桐国際委員長：国際委員会の活動報告と振り返りです。現在、国際委員会は韓国のソウル特別市放射線士会と学術協定を締結しています。そして、年2回日本と韓国の両国での国際学会インターナショナルセッションで発表しています。また、お互いの文化を知ることを含め、学術交流を行っています。

昨年7月は、横浜市で開催された2025年度関東甲信越診療放射線技師学術大会で、神奈川県

放射線技師会の協力を得て国際セッションを開催しました。また、今年3月には韓国ソウルで開催されるSRTA学術大会に、東京都診療放射線技師会から派遣する発表者2名と一緒に参加する予定となっています。

先ほど江田会長のお話にもありましたが、国際委員会の活動を広報するために、昨年6月に日暮里塾ワンコインセミナーで、昨年度の韓国SRTA学術大会で発表された2名の先生に、その時、現地ではもちろん英語だったのですが、今回は会員向けに日本語にして、その内容を発表してもらいました。

また、私と菊池副委員長が、国際委員会の活動や、現地での発表以外のそれぞれのシーンをお話し、国際委員会の実績を広く皆さんに知っていただくという活動をしました。

現在のところ国際委員会はこのような活動となっており、次年度も同じように活動してまいります。

岩井編集委員長：桐委員長、ありがとうございます。

続きまして、入会促進委員会の中尾委員長、お願いします。

中尾入会促進委員長：活動と振り返りについては、情報委員会、学術委員会、教育委員会など各委員会や、地区委員の方々と連携をとりながら、診療放射線技師会の活動や、メリットなどを発信できたと思っております。例えば、東京都診療放射線技師会のホームページに記事を掲載していただいたり、リーフレットやチラシを作成したりと、会員の皆様に技師会の魅力をより身近に感じていただけるように発信してまいりました。こうした取り組みを通じて、少しで

も多くの方に入会を検討していただけると嬉しいです。

岩井編集委員長：ありがとうございます。

本題の対談に入っていきたいと思います。江田会長よろしくお願いします。

江田会長：今年、皆さんが実施したいことなどをおきかせください。

中尾入会促進委員長：私が一つ考えていることは、まだ、入会促進委員会の中で相談もしていないことですが、ショート動画を使って診療放射線技師の声に回答するようなものを作ってほしいです。

例えば、『診療放射線技師の会費が高い』との声に関して、江田会長からなぜ、高いのか、そもそも何に使われているのか、妥当な価格なのかなどを回答することで、身近に感じると思います。

江田会長：それは、SNSなどの動画ですか？

中尾入会促進委員長：おっしゃるとおりです。

江田会長：そうですね、今の人たちは活字よりも動画のほうが広報力はありそうですね。

中尾入会促進委員長：動画作成をできる方など少しスキルはいりますが。

江田会長：そういうスキルのある人がいるといいですね！

中尾入会促進委員長：今は無料の動画のアプリやiPhoneで作れる時代です。やり方や、型を作れば意外と簡単にできたりするかもしれませんね。

江田会長：やはり予算のことがあるのでその辺も含めてですが、今日はお金のことは考えないで、こういうことを本当はやりたいという話をしてもらおうほうがいいかと思います。

今、中尾委員長から新しい提案がされましたが、笹沼委員長は何かありますか。

笹沼放射線相談委員長：放射線相談委員会では今年も、学術委員会とコラボした講習会を開催したいと思っております。カウンセリングのスキルは放射線被ばく相談だけでなく新人教育や職場のコミュニケーションなど応用範囲は広く、本格的に習うにはハードルが高い分野ですが身につけるといろいろな面で応用できます。被ばく相談や職場で使える比較的簡単なカウンセリングのスキルを体験していただける講習会を開催したいと思っております。



江田会長：そういうことをキャッチコピーで会員に説明すると、「被ばく相談か。あまり興味ないけど、でも、そういうスキルをこういうものに活用できるのなら学んでみようか」などということがあるので、キャッチコピーも考えながら企画してもらえるとありがたいです。

笹沼放射線相談委員長：ありがとうございます。

江田会長：ありがとうございます。他はどうですか。

桐国際委員長：国際委員会は私たちの活動を多くの会員に知ってもらいたいのので、ワンコインセミナーなどの勉強会を通じて広く広報していきたいと思っています。

英語での発表になるとどうしてもハードルが少し高くなってしまいます。そこで、最初の一步を踏み出すためにどういったスキルが必要なのか、スライドの作り方や質疑応答の対策といったレクチャーをやりたいと思っています。

また、学術交流として他国の医療制度なども学ぶ機会もあります。昨今、本邦の病院経営状況が厳しいといわれていますが、では、他国と比べてどうなのか、他国はどういった制度をとっているのかなどの知識を増やすことができます。このような活動により東京都診療放射線技師会が皆さんの職場や業務のなかでお役に立てるのではないかと考えています。

以上です。

江田会長：ありがとうございます。また、去年いろいろやってみて、こういうところがなかなか事業展開できなかったのを改善したいなど、何かあったらご意見をいただきたいのですが、いかがですか。

笹沼放射線相談委員長：放射線相談委員会としては東京都診療放射線技師会のホームページも変更していただき、よりアクセスしやすくなったのではないかと考えております。また、ホームページの放射線Q&Aについても書式を統一して内容の改訂中です。江田会長には委員会活動についていろいろな機会をいただいております。いろいろなことに挑戦させていただいております。

江田会長：昨年度はペイシェントでセッションを実施していただき、その時のご縁で五月女先生のご紹介で福島の被災地に学生と一緒にいき、原発災害がどういうものかを直接見てもらい、それを会誌でも広報していただいた事はとても

良かったと感じています。

実際は、被ばく相談だけではない活動を広く理解していただくことも必要だと思いますので、引き続き、放射線相談委員会としての活動を実施していただきたいと思います。

入会促進の中尾委員長は他部門の委員会を巻き込んで入会促進事業を展開しているのは、会として理想的な方法でとても良いと感じます。

被ばく相談では、コミュニケーションスキルはとても大切だと思います。そういうことはなかなか学んでいない人も多いと思いますので、傾聴方法などの勉強会なども開催していただけるとよいかもしれませんね。

笹沼放射線相談委員長：ありがとうございます。

江田会長：桐委員長、何かありますか。

桐国際委員長：昨年度の活動の中においても海外の方をお招きする、あるいはわれわれがあららの国に行くことがありました。その準備を国際委員会の委員で行っているのですが、やはりかなりの労力が必要になってきます。本当にありがたいことに、たいへん優秀な委員が集まっております。今のところ滞りなく進めていますけれども、もっとそのスキルやノウハウをきちんとマニュアル化して、継続していけるようにしていかなければいけないと感じております。

以上です。

江田会長：国際委員会では、どのような活動を実施したいとありますか？

桐国際委員長：そうですね。SNSで発信するということであれば、国際委員会の活動も一緒に載せてもらえるとうれしいです。先ほどお話ししました通り、若手の最初の一步を手伝うようなことに力を入れていますので、まだ海外発表し





たことがない方も興味を湧くようなSNS発信をしてもらいたいです。

中尾入会促進委員長：広報をどの委員会が行うのかを検討することがすごく難しいと感じました。

国際委員会で活動内容を発信するとなると、国際委員会の方で動画を撮っていただいて、どの委員会が編集するのかなど。また、ホームページは東京都診療放射線技師会で行っていますが、そのホームページを見ていない方、勉強会に参加をされない方など興味を示していないニーズにどのような形で情報を届けていくのが一番の課題だと感じております。

江田会長：本当に広報力というのは意外と届いていないということが結構、現状としてあります。

桐国際委員長：広報は難しいですね。

江田会長：でも、広報は何かしら広報力を持ったほうがいいです。SNSなども一つの方法だと思います。

中尾入会促進委員長：今回の座談会中の会話の中にも相談委員会や国際委員会の、この部分を切り抜けば非常に興味を示していただけるのではないかと思う内容が沢山ございました。例えば、DRL'sの改訂や、カウンセリングでの質問に関しての回答や、国際委員会ですと海外での発表の経験などSNSを活用すると、他県ではおこなっていない、東京都診療放射線技師会の魅力がとても伝わるのかなと、お話を聞きながら思っておりました。

江田会長：本当ですね。いい意見をありがとうございます。

当会は公益法人なので、委員会として都民に向けてどのような貢献ができるかということでは、お考えはありますか。

桐国際委員長：都民という視点で考えた時に、国際委員会はまず海外の方とコミュニケーションをとりますので、それなりに語学力やコミュニケーション能力が必要になってきます。当委員会活動を通じてどんどんその輪が広がれば、多くの診療放射線技師の方が病院や職場で日本語以外の言葉を使う都民の方に貢献できると考えています。

また他国の医療情勢にも精通していますので、多くの都民に有益な情報を発信できると考えています。

江田会長：ありがとうございます。入会促進はどうですか。

中尾入会促進委員長：会員が増えたと過程したときに、他施設の方と交流をする機会も増えると考えております。診療放射線技師会の中でも交流を深められるような行事も多くございます。そうすることで他の施設基準や、自施設で困っていることなどを共有していただくことで、医療の質が向上するのではないかと考えております。

江田会長：ありがとうございます。笹沼委員長はどうですか。

笹沼放射線相談委員長：放射線相談委員会ですから、放射線や検査に対する相談が受けやすいように間口を広げていくということが一つあります。先ほど入会促進の中尾委員長からお話があった、Instagramなどを窓口にして不安を持っている人が気軽に相談できるような形がとれればと思っております。

東京都診療放射線技師会では長期間にわたり放射線や検査に対する相談を行ってきたので、これらに対する蓄積が沢山ありますので、これらの経験をまとめて国際学会で発表できたらと思っております。

江田会長：ぜひ。

笹沼放射線相談委員長：国際委員会の桐委員長にもご協力いただき実現したいと思います。

江田会長：そういうことも面白いのではないですか。

笹沼放射線相談委員長：去年のペイシェントケア学術大会で、今までのデータはまとめたものを発表させていただきましたので、今年の目標として、それらのデータをまとめ会誌に載せる、あるいは海外で発表することをやってみようかと話しているところです。



桐国際委員長：ぜひ喜んでやらせてください。

江田会長：それが先ほど言った委員会の連携で、そういうことをやってもらえるとありがたいです。

桐国際委員長：昨年度の3月に韓国で発表された先生には、日本で今行っているタスク・シフト/シェアの静脈路確保の発表をしていただきました。

やはり諸外国ではまだ技師が実際に静脈路確保をすることが法律上できないところもあり、興味を多く持ってもらったので、被ばく相談のことも多くの方が興味を持つと思います。

江田会長：私は2回、SRTAでソウルに行ったのですが、あまり海外の発表者でそういう発表をされている人はいなかったです。皆さん、モダリティー関係の発表でした。それは少し違う見方もあると思いますので、面白いかもしれません。

桐国際委員長：ぜひご相談ください。

笹沼放射線相談委員長：ぜひお願いします。

岩井編集委員長：先ほどの広報で、公益性ということから都民にということだと、例えば被ばく相談の窓口をホームページに設けていますが、そのバナーを東京都のホームページに載せてもらうようなお願いはできないのですか。

江田会長：東京都のですか。

岩井編集委員長：東京都のです。

江田会長：それはどうなのでしょう。東京都は他の団体のバナーを貼るようなことをやっているのですか。

岩井編集委員長：そういうことがもしあるのなら、被ばく相談は本当に都民に一番役に立つので、その窓口が東京都にあるといいのではないかと思います。公益法人ですので、東京都の後援や監督も受けていますので、そういった相談

を積極的に東京都にしてみるのも一つ広報ということではいいのではないかと思います。

中尾入会促進委員長：国際委員会の演題が増加した理由やエントリーしたいと思った経緯などございましたら、お聞かせください。

桐国際委員長：応募が増えた理由ですか。

中尾入会促進委員長：そうです。

桐国際委員長：確認はしていませんが、同じ施設内のどなたかが国際委員会で発表をしてその経験が良かったので、口づてで「応募してみたら？」というふうに広がってきている感じがしています。次は広報活動を見て自分もやってみたいと思ったという方を、もっと取り込めればと思っています。

江田会長：今年度は、国際委員会でワンコインセミナーなども開いて、会誌にも掲載したことが大きかったと思います。

桐国際委員長：ペイシエントケア学術大会でも国際のセッションを設けていただいた事も大きかったと思います。

中尾入会促進委員長：ありがとうございます。

江田会長：笹沼委員長はないですか。

笹沼放射線相談委員長：会長にはいつも援護していただいています。今、会長が言われているホームページの放射線Q&Aの改訂は進めております。書式については先日、5役会で承認をいただけたということですので、引き続きホームページの改訂作業を進めてまいります。

江田会長：ありがとうございます。

笹沼放射線相談委員長：昨年度、放射線相談の基本の「き」という講習会を行い、技師が被ばく相談をする上で大切なことを解説しました。また今年度も開催したいと思います。



江田会長：希望としては、放射線相談委員会と災害対策委員会がコラボして原発災害時にサーベイ活動をする中で、被災された方々の被ばく相談などのセミナーなどを企画していただけるといいですね。

笹沼放射線相談委員長：はい、災害時には通常の被ばく相談とは異なりリスクコミュニケーションのスキルが必要になりますので、それらを含めて検討したいと思います。

江田会長：災害対策委員の中には、それらを見つけている委員もいらっしゃると思いますので、一度ご相談してみていただきたいと思いますね。

笹沼放射線相談委員長：災害対策委員会の渡辺委員長にもご相談させていただきます。

江田会長：ぜひお願いします。

笹沼放射線相談委員長：委員会で検討していきます。

江田会長：そういった形で連携を生み出すような活動・事業をやってもらえると、TARTがぐっと締まってくると思います。個ではなく、個が集まったチームとしてやっていただきたいというのが、私の希望としてあります。

岩井編集委員長：都民の相談の時に、被ばく相談委員会が行われているのは、例えば話すスピード、言葉の内容、寄り添い、どういうことに注意して回答しているのですか。そういうことを



ここでアピールできたらと思います。

笹沼放射線相談委員長：主にメールでの回答ですので、できるだけ早く回答するように心がけていますが一番心がけているのは、相談者に寄り添うということです。

通常のメール相談は1回で終わることが多いのですが、一人一人の相談内容や理解度に合わせて少しずつ回答を行い、その都度、確認や質問を行うことにより相談者の背景や状況を理解しながら回答を進めるようにしております。そのためメールのやり取りが何回にもなることがあります。何度かやり取りすることで相談者との信頼関係が構築されることが多く、背景や状況を理解した上で回答することができます。そのような関係で回答することができると、相談者が自ら納得した結論を出されることが多いように感じています。1回の相談で2カ月以上になることもあります。一人一人の相談に対して最後まで寄り添うように心がけております。

江田会長：長きにわたって笹沼委員長の回答を、委員会になる前から私は見せてもらっていたのですが、本当に寄り添う回答なのです。本当に優しいなというような文章を書いていただいていますね。

笹沼放射線相談委員長：ありがとうございます。

岩井編集委員長：私も会長と一緒に、メールを見ていて、ぜひそれを話してほしいと思っていたのです。

江田会長：笹沼委員長の被ばく相談の活動はもう10年以上やっていますものね。

笹沼放射線相談委員長：はい。

江田会長：私が現役の時には笹沼委員長の回答文章を全部コピーして保管していました。なぜそ



うしたかという、東日本大震災なのです。あの時に患者さんからよく放射能による被ばくの質問をされたため、笹沼委員長の回答を参考にさせていただきました。

そろそろまとめてもいいですか。

岩井編集委員長：はいお願いします。

江田会長：今日は本当にありがとうございます。

入会促進委員会は、われわれの職能としての地位や資格の向上を目指していることを理解していただきながら、入会促進を図っていただきたいと思います。

国際委員会に関しては、会員一人一人に国際委員会としての楽しみや、スライドの作り方などを会員に広めてもらいたいと思います。

放射線相談委員会には会員だけではなく、やはり都民、公益法人として一般の方々に、放射線被ばくなどについて傾聴姿勢を持ったカウンセリング的なことをやっていただきたい。

また、先ほどもお話ししたように、ぜひとも災害対策委員会ともコラボしながらやってもらえるとありがたいと思います。

それともう1つは、医療放射線管理も、技師から見てこういうやり方があります、こういうところが重要ですよということをやっていると、非常に会員にとってもメリットがあるかと思います。

本日は新しい年を迎えて、皆様からたくさんの抱負をお聞かせいただき、ありがとうございました。

一同：ありがとうございました。

岩井編集委員長：いろいろなヒントがありました。首相官邸でも公式Facebookや公式LINEなどを作っていますので、東京都でも公式のSNSの一つ作って、そこで発信していくということもありかと思います。そのきっかけができましたので、これは各委員会横断的に、知識を持った人同士が連携して行っていくことができるのではないかと、本日の座談会で見えたかと思いました。

それではこれで2026年新春座談会を終わります。どうもありがとうございました。

一同：ありがとうございました。



第25回

合同学術講演会

(公社) 日本放射線技術学会 東京支部・(公社) 東京都診療放射線技師会

Road to “Radiology × All Tokyo!”

開催日

2026年

1/10 (土)

15:00～17:00

参加費

正会員 ¥500

非会員 ¥1,000

学生 無料

会場

東京都立大学
荒川キャンパス



セッション1：15:05～15:30

座長：佐藤 英介先生（順天堂大学）

「Radiology × All Tokyo!」に演題を出すために

研究は日々の疑問から ～プロセスと学術支援の活用法～

野坂 広樹先生（茨城県立医療大学）

セッション2：15:30～16:10

座長：樋口 壮典先生（東京慈恵会医科大学附属第三病院）

研究と現場を結ぶ方法論 ～多施設共同研究，医工連携～

地域医療連携の“困った”を“研究”で解決

～事例紹介とそこから見えた課題を考える～

南里 博克先生（東京医科大学八王子医療センター）

医工連携の成功事例

～医工連携でどのようなブレークスルーが生まれるか～

根岸 徹先生（東京都立大学）

セッション3：16:10～16:55

座長：谷畑 誠司先生（量子科学技術研究開発機構）

いま求められる技術者像とは ～若手・中堅に向けたメッセージ～

若手に伝えたい教訓 ～中堅技師が経験した成功と課題～

吉村 良先生（公立昭和病院）

キャリアの多様性と成長戦略

～現場の技師に求められるスキルと心構え～

木暮 陽介先生（順天堂大学医学部附属順天堂医院）

参加登録期間：2025年11月1日(土) ～ 2026年1月10日(土)

Web配信の予定はありません。会場収容人数に達した段階で登録を締め切る場合がございます。
登録された個人情報は、参加人数の把握および認定ポイント付与に関する管理にのみ使用します。



お問い合わせ

公益社団法人 日本放射線技術学会 東京支部連絡事務所
TEL 03-5804-2301 Mail: tokyobukai-adm@umin.ac.jp

公益社団法人 東京都診療放射線技師会事務所
TEL 03-3806-7724 Mail: gakujitu@tart.jp

会員動向

2025年4月～11月期

年 月	月末会員数	新 入	転 入	転 出	退 会
2024年度末集計	2,702	279	41	28	151
2025年 4月	2,742	40	6	5	1
2025年 5月	2,762	31	2	6	7
2025年 6月	2,788	26	2	1	1
2025年 7月	2,821	36	1	0	4
2025年 8月	2,836	17	2	2	2
2025年 9月	2,829	12	4	1	22
2025年10月	2,841	20	3	0	11
2025年11月	2,834	9	2	1	17

診療放射線技師の人材探し・仕事探しなら！

JMB

ジャパン・メディカル・ブランチ

診療放射線技師が創立 だから…放射線技師に強い！

医療職専門！ だから…充実した人材とお仕事
取扱職種：診療放射線技師・臨床検査技師・看護師・薬剤師 等

半日単位～正社員採用まで幅広いニーズに対応！

医療職専門の職業紹介・人材派遣 株式会社ジャパン・メディカル・ブランチ

お問い合わせ 0120-08-5801 / info@jmb88.co.jp

〈一般労働者派遣事業許可：派 13-301371 有料職業紹介許可：13-ユ-130023〉



News

1月号

日 時：2025年11月6日（木）
午後7時00分～9時10分

場 所：インターネット回線上

出席理事：江田哲男、野口幸作、関 真一、浅沼雅康、
鈴木雄一、木暮陽介、市川重司、石田雅彦、
高野修彰、市川篤志、竹安直行、江積孝之、
今尾 仁、渡辺靖志、鮎川幸司、関谷 薫、
島田 諭、布川嘉信、大津元春

出席監事：野田扇三郎、白木 尚

指名出席者：増田祥代（第1地区委員長）、松田敏治（第
4地区委員長）、北野りえ（第5地区委員長）、
伊佐理嘉（第6地区委員長）、西郷洋子（第9
地区委員長）、澤田恒久（第10地区委員長）、
名古安伸（第11地区委員長）、吉村 良（第
12地区委員長）、長谷川浩章（第14地区委員
長）、宮下麻依（第15地区委員長）、岩井譜
憲（編集委員長）、桐 洋介（国際委員長）、
中尾 愛（入会促進委員長）、村山嘉隆（総
務委員）、青木 淳（総務委員）、新川翔太（総
務委員）

欠席理事：なし

欠席監事：なし

議 長：江田哲男（会長）

司 会：浅沼雅康（副会長）

議事録作成：村山嘉隆、青木 淳、新川翔太

会長挨拶

本日もご多忙の中ご参集いただきまして誠にありが
うございます。本年の秋の叙勲で執行理事の市川重司さ
んがご受章されましたことをご報告させていただきます
す。本日も多くの議題がございます。皆さまには忌憚の
ないご意見と審議をお願いしたい。

理事会定数確認

出席：19名、欠席：0名

前回議事録確認

前回議事録について確認を行ったが修正意見はなかった。

報告事項

1) 江田哲男 会長

・活動報告書に追加なし。

2) 副会長

関 真一 副会長

・活動報告書に追加なし。

野口幸作 副会長

・活動報告書に追加なし。

浅沼雅康 副会長

・活動報告書に追加なし。

3) 業務執行理事

総務：鈴木雄一 理事

・活動報告書に追加なし。

庶務：木暮陽介 理事

・活動報告書に追加なし。

教育：市川重司 理事

・活動報告書に追加なし。

4) 専門部委員会報告

・活動報告書に追加なし。

5) 地区委員会報告

・活動報告書に追加なし。

6) 各委員会報告

・活動報告書に追加なし。

7) 中間監査報告

・事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正し
く示しているものと認めます。

・理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは
定款に違反する事実は認められない。

・各委員会は計画通り進行している。

・地区開催の講習会は参加者が多いが、学術委員会企画
の内容は良いが参加人数が伸び悩み、各地区の広報
等の協力が必要。

・新企画（バーベキュー）は好評で、今後も新しい企画
の検討を推奨する。

・財政健全化については引き続き理事、委員長の協力が
必要。

- ・計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認められる。

8) その他

- ・新企画・アンケート調査報告：今尾仁 厚生調査委員長
バーベキュー企画を実施。参加者36名、アンケート回答19件(回答率52%)。
新規参加者は約25%で目標達成。
来年度に向けて複数の企画案を検討予定。
- ・OTAふれあいフェスタ報告：江積孝之 広報委員長
公衆安全衛生学会との共同事業「OTAふれあいフェスタ」について、地区委員の協力もあり、成功裏に終了。
- ・HPの変更報告：竹安直行 情報委員長
トップページに関東甲信越を追加したので報告をする。
- ・HPの変更報告：中尾 愛 入会促進委員長
保険に関する掲載箇所を分かりやすいようにページの上の方に来るように編集をしたことを報告する。
入会促進のリーフレットの配布や広報のご協力もお願いします。

議 事

1) 事業申請

①第165回日暮里塾ワンコインセミナー Web開催

テーマ：学術委員が選んだ発表演題

日 時：2026年1月23日(金) 18：30～20：30

場 所：東京都診療放射線技師会 研修センター

【承認：19名、保留：0名、否認：0名】

②第15地区研修会

テーマ：AI時代のシン常識－新たな価値の創出－

日 時：2026年1月23日(金) 19：00～20：40

場 所：高津市民館 第5会議室

【承認：19名、保留：0名、否認：0名】

③第166回日暮里塾ワンコインセミナー Web開催

テーマ：救急時のX線撮影－そうだったのか救急撮影－

日 時：2026年1月27日(火) 19：00～20：30

場 所：東京都診療放射線技師会 研修センター

【承認：19名、保留：0名、否認：0名】

④第6地区研修会(ハイブリッド開催)

テーマ：上部消化管造影検査の基礎と応用

日 時：2026年3月6日(金) 19：00～20：30

場 所：Web併用 ハイブリッド開催

【承認：19名、保留：0名、否認：0名】

⑤城南支部研修会

テーマ：画像工学の視点から見たAIと画像再構成の現状と未来

日 時：2026年3月19日(木) 19：00～20：30

場 所：東邦大学医療センター大橋病院

【承認：19名、保留：0名、否認：0名】

2) 通信雑費の見直し

鈴木雄一 総務委員長：

皆さまのご意見を集約したものを、資料として添付した。3つの項目に大別でき、「収支状況と経費削減に関する意見」、「特定事項に関する執行部の見解確認・対応状況」、「会費(400円)に関する見解」である。

江田哲男 会長：

まずは皆さまにさまざまなご意見をいただきありがとうございました。今回資料に改めて地区理事および委員長の皆さまにお願い文を作成させていただいた。昨年度の本会活動の活発化により支出が増加し、約500万円の赤字決算となった。主な要因として、以下の3つが挙げられる。1つ目は事業活動の活発化によりコロナ収束に伴い事業会議の回数が増加したこと。2つ目は会議出席者の増加で、一昨年度の延べ出席者数は約1,500名であったが、昨年度は2,500名と大幅に増加したこと。3つ目は、会誌の印刷製本、発送費用の値上げおよび部数の増加によるものである。このような状況を受け、現時点の見込みで、本年度も昨年度と同様に約500万円の支出超過となる可能性が予測される。今回、これ以上の赤字拡大を避けるため、できる限りの支出節減に取り組む必要がある。特に、一昨年度と比較して大きく増加している通信雑費について、重点的な見直しを検討している。通信雑費の過去データを含めた情報は、理事会にて既に報告したとおりである。また、通信雑費については、15年近く据え置いてきた金額を見直して値上げを行った経緯がある。しかし、現状を踏まえ、本年度については従来の水準に戻す方向で検討を進めている。このような費目の見直しを通じて、全体の支出構造の改善を図りたい。

今後の対応方針としては、以下の6点を中心に検討を進める。①会議費の見直し、②会議回数の適正化、③委員人数のルール化、④イベントの有料化、⑤広告件数の促進、⑥印刷製本等の費用削減(会誌は次年度に向けて対策の検討)財政の健全化を進めるにあた

り、理事および会員全体で意識を共有し、協力しながら進めていくことが重要である。会議やイベントの開催、委員会活動の運営など、さまざまな場面で配慮を求めることも多くなるが、何卒ご理解とご協力を賜りたい。今後は経理委員会の分析の結果を踏まえながら、具体的な削減効果や改善策を数値として明示し、理事会において報告と提案を行う予定である。活動を持続可能な形で継続し、より充実した事業を展開していくためにも、皆さまのご協力をお願いしたい。

浅沼雅康 副会長：

これはあくまでも本年度についてである。一昨年度と同等の事業活動であると、同様の額が赤字として計上される可能性があるため、本年度の通信雑費のみを以前の400円で進めていきたいという会長からのお願いである。次年度は再度検討し、400円を継続するかどうかは改めて執行部等も含めて精査を行う。

江田哲男 会長：

来年度に向けては、皆さまから提案のあった内容は現在、執行部の中でも非常に密に検討に入っている。皆さまのモチベーションが下がらないような状況に持っていき、東京都診療放射線技師会の事業活動が発展的かつ活発に活動できるような環境づくりを整備していきたい。ぜひとも皆さまのご協力をお願いしたい。

鮎川幸司 第13地区委員長：

年度末に通信雑費を一覧にして経理委員会に送ると思うが、現在までの1,000円で計上していたものを全て400円に変えて提出するのか、この理事会以降の分を400円として提出するのか、どちらになるのか。

江田哲男 会長：

本年度という形になる。遡りは4月からを全て400円に修正するということになる。運営幹事会では、会議費については請求を辞退するという形で考えており、専門部委員会の中でも話したところ、専門部委員会も同調するというご意見をいただいた。本年度に限っては専門部委員会、運営幹事会で発生した会議費等については、辞退という形をとらせていただく。ただし、地区委員会に関しては、4月に遡って400円できちんとお支払いする形をとらせていただく。

名古安伸 第11地区委員長

もう一度確認したいが、本年度4月から会議等を地区で開催しているが、会費も遡って400円になるとい

うことか。

江田哲男 会長：

繰り返すが、本年度4月から開催されている会議からということになる。年度末に支払うということに進めてきた会議だが、400円になってしまうということ、地区委員の方に話をしなければならないことになる。

吉村 良 第12地区委員長：

今後の対応方針の中の委員人数のルール化について質問だが、地区の数を減らすとか、地区の合併等は今後検討するのか。現在、どこまで話が進んでいるのか。

江田哲男 会長：

委員人数のルール化という項目は、必要だという認識であるが、すぐに実現は困難である。地区委員会に関しては、現時点で何も考えていない。理由として、地区委員会に関しては委員のルールが既に規定されているためである。専門部委員会や特別委員会など、人数のルールが設定されていない委員会について、適材適時の人数が配置されているのかを紐解きながら、これから検討に入っていかなければならないと考えている。必ずこれを実施するという事ではない。この6つの項目について、検討を進めながら適切に改善していきたい。

吉村 良 第12地区委員長：

第12地区は会員数が少なく、定年を超えた方や若い方が地区委員を務めていただいている。会議費が下がると、地区委員や技師会自体を辞めてしまうという話が第12地区で既に出てきている。地区の話や振り分けも今後検討していただけないか。

江田哲男 会長：

この件に関しては、改めて担当副会長を含めて個別に話を聞かせていただきたい。

浅沼雅康 副会長：

皆さまの満場一致で承認としているわけではないことは重々承知している。何ヶ月かにわたって審議してきたが、とりあえず本年度の通信雑費については、以前の400円で据え置きの状態に戻すということで、承認を取らせていただく。お約束として、次年度以降は適切なルール化、人数、地区割り等も含めて検討を進めてまいりたい。来年度の通信雑費については、また理事会の方で提案させていただくことになる。皆さまにご迷惑をおかけするが、何卒ご理解ご協力を

お願いしたい。

野口幸作 副会長：

本件に関して、地区委員の方々に説明しづらい場合はお声をかけていただきたい。執行部も地区委員会に参加し、説明し頭も下げさせていただく。何卒協力を賜りたいという思いで、今回こういう提案を行ったので、執行部としても対応させていただきたい。

【承認：19名、保留：0名、否認：0名】

3) 新入退会について

10月：新入会20名、転入3名、退会11名

【承認：19名、保留：0名、否認：0名】

地区質問、意見

第1地区：

- ・この件について、委員長から地区委員へ説明を行ったが、執行部から各委員に向け、一連の経緯を説明しても良いのではないかと、意見があった。それほど重要な案件ではないかと思うがいかがか。

→議事2)で回答

第3地区：

- ・減額に対する抵抗感がある、地区委員としてイベントにも協力しておりモチベーションは下がる。
- ・近隣の会議費と比べても以前は低い状況であった。
- ・地区ごとに活動状況が異なり、活発な地区との差が大きい。
- ・減額するのであれば段階的に減らしていく方がよいと思う。
- ・年間の会議スケジュールを統一するなどして、会議費、また対面型の会議を減らして交通費の削減を検討するべきである。
- ・会議参加に対する規定を検討する(参加時間、参加場所、顔出しなど)
- ・研修会では、講演費が発生するものは参加費を徴収していく。
- ・Web研修会も参加費を徴収するシステムにする。

→議事2)で回答

第6地区：

9月の退会者が22名と多くなっているが、執行部として考察等は行っているか。また行っていたら教えていただきたい。

→野口幸作 副会長：

結論から言うと、実際退会者は例年に比べると多かった原因は分かっていない。年齢構成と退会理由、

入会期間を調査した。20代会員は、経済的な理由、会費が高い、会に魅力を感じないという意見が多かった。60代会員は退職のためという理由が多かった。20～30代女性会員も結婚や出産による退職のためという理由もあった。全体の状況はまだ見えていないが、今月会員数を持ち直した部分もある。

木暮陽介 庶務委員長：

東京都の場合は、保険に関して東京都で強制的に入る形になっており、それ以外のところで保険に関してはJARTくらいしかない。リスクのある静脈確保に関する業務を実際にする際の保険に関しては、JARTに入れば自賠責として対人で350万円おりる。Aプラン、Bプランで2,100円、1,600円。2,100円の場合は対人で1億円おりる。保険という点でJARTに入っておけば自賠責が適用できるメリットがあることをアナウンスしていただけると、入会促進や継続につながると思っている。

鮎川幸司 理事(13地区委員長)：

退会理由を記載する箇所や選択項目があり、そういったものが集計できるのであれば、理事や入会促進委員会には退会理由もフィードバックをしていたほしいと思う。

野口幸作 副会長：

現状、1人1人調べないといけないという労力もあるので、今すぐに回答はできない。退会理由に関しては選択項目かと思う。今後、退会理由についてのフィードバックもしていけたら良いと思っているので、検討させていただきたい。

吉村 良 第12地区委員長：

地区の勉強会に参加した方へのメールアドレスを使用してアナウンス等をしてほしい。

野口幸作 副会長：

本会の個人情報保護規定で取得したメールアドレス等で広報や案内をすることは、会として良いとしている。ただし、送信する文面内容に関しては検討が必要かと思う。

木暮陽介 庶務委員長：

勉強会にお申込された方においては、最初の申し込みフォームに、このアドレスを使用させていただき、勉強会の案内をさせていただきます等の一文を入れて了承の形をとっている。案内を送らないでほしいと連絡が来た場合は受付けて、次回からはご案内は差し控えさせていただき旨を伝えて対応している。

第7地区：

400円となることには理解し賛成する事とするが、今回の件に対し「見通しが甘かった」というだけの理由には到底納得ができない、この件に関して当初どのような想定をしていたのか、この判断に決まるまでどのような対応をしていたのかをきちんと分析し、今後同じようなことがないようにしていただきたいと考える。

→議事2)で回答

第8地区：

当地区の通信雑費減額に関する見解

当地区の地区委員会はコロナ禍前までは年11回を対面で開催していた。コロナ禍はメール会議が主となり、コロナ禍が明けた現在はWebと対面で開催している。次年度はメール会議を主として研修会などの事業の打ち合わせはWebもしくは対面での開催とし通信雑費を減らす努力をする。

前年度の収支状況を鑑みて当地区は通信雑費の減額に依るが、同時に会誌等の経費削減も同時に検討し次年度からの実施を行わなければ依ることはできない。

通信雑費を減額するだけでは赤字収支を大幅に減らす効力はないと感じる。やはり研修センター拡張等の積立は赤字収支が落ち着くまでは保留とし、さらに会誌の紙の品質を下げコストダウンを図る。

告示研修が本年度で終了するため本年度末での退会者が増え、次年度は更なる収入減が予想される。赤字収支を是正するには様々な項目において経費削減を行わないと手遅れになると考える。

1. SARTへの派遣人数の削減
2. ペイシェントケア学術大会の開催場所を駒澤大学・東京都立大学に変更する。
3. イベントペイを利用して各研修会参加者から会費をいただく。

以上が第8地区の通信雑費減額に関する見解と赤字収支是正の提案とする。

→議事2)で回答

第11地区：

- ・昨年度500万の赤字が発生したとあるが、なんの赤字なのか説明がなく不透明。
- ・預金の見直しをしても良いのではないか
- ・旅費交通費(SRTA)の見直しはいかがか
- ・会議費、旅費交通費に上限設定してはいかがか

→議事2)で回答

第16地区：

他の抜本的な経費削減案に関しては、具体的にはないのではないか。前回は意見を述べたが、一都道府県技師会が、国際交流を、継続的に行わなければならないのか？ 継続するのであれば、予算を削減しての継続のお考えはあるか。

→議事2)で回答

情報委員会

研修会の会誌掲載の提案に関して、情報委員会から下記の提案をお願いする。

「開催月」の定義を、6日にすることを提案する。

理由として、会誌が手元に来る時期を最短2日から最長5日(営業日)と考える。11日とすると、会誌が来た時には研修会が終わる前に記事が載っていないことになるためである。

情報の掲載は問題なく掲載している。

→竹安直行 情報委員長

研修会を会誌に掲載するタイミングの定義について精査して、編集委員会の岩井委員長と相談して決定したことを報告する。

編集委員会

会告等掲載の取り扱いについて

→岩井譜憲 編集委員長：

いままで、原稿が揃っていれば3ヶ月でも会告をしていた。もともと会告は開催月を含めて2ヶ月間の掲載、開催開始に関してはHPと会誌は同時掲載という形で進んでいたが、会誌の到着が郵便事情により1日に届かない場合がある。月初に開催されるイベントでは掲載期間が実質1ヶ月になってしまうことがあったので、掲載に関する開催月を10日締めという形にすることとした。11日から翌月10日までを開催月という定義にする。そうすることで月初に開催されるイベントでもほぼ2ヶ月間の掲載期間を設けることができる。しかし、開催日の会誌に会告等が掲載されていないこともあるため最終開催掲載月の部分に、「本イベントは月初開催のため、開催月である来月号に掲載されません。今号またはホームページをご覧の上ご参加ください」と掲載させていただく。

浅沼雅康 副会長：

変更は年明けの1月からになるか。

岩井譜憲 編集委員長：

即時行いたいと思っている。

中尾 愛 入会促進委員長：

1月の10日と15日だと5日間しか変わらないが変わるものなのか。

岩井譜憲 編集委員長：

切れ目がなくなってしまう堂々巡りになるのでこのようにさせていただいた。

伊佐理嘉 第6地区委員長：

原稿の締め切りは10日か月末か。

岩井譜憲 編集委員長：

原稿締め切りは通常通り月末になる。月初開催のイベントに関しては今までよりも1ヶ月締め切りが早くなるということである。

連絡事項

高野修彰 渉外委員長：

例年通り、小野賞の推薦の検討をしていただきたいと思っている。様式に関しては運営メールで送らせていただく。各委員会で推薦をお願いする。締め切りは1月末を考えている。

木暮陽介 庶務委員長：

新春の集いについて、今回の理事会でご理解いただけたら早々に企業と招待客に案内を出す予定。会告とHPにも案内を掲載していただきたい。費用は企業の方15,000円、会員は5,000円。値上げの案も考慮したが、会費は据え置きで参加人数を多くする方向で企画をしている。1月9日にラングッドで開催予定。前は会員が61名、企業の方が30名参加。今回は会員を各地区2名ずつ増やしていただきたい。地区委員の方々が一同に集まって催し事に集まる機会も少ないので、もしよければ是非1名2名多く集めていただきたい。

市川重司 教育委員長：

第164回ワンコインセミナーでイベントペイを初めて使用して行うが、参加者がまだ少ないため、各施設地区で広報をお願いしたい。本年の9月に診療放射線技師のための医学用語集の改訂版が出版された。定価1,200円の2割引程度で購入することができるので、必要な方は連絡をしていただければ販売等々のやり

取りをさせていただく。是非購入をよろしくお願いする。

市川篤志 学術委員長：

11月14日の日暮里塾ワンコインセミナー、11月15日のきめこまかな生涯教育の広報もよろしくお願いする。

江田哲男 会長：

関東甲信越の演題募集も始まるので広報をよろしくお願いする。開催日は来年の6月27日28日である。

鈴木雄一 総務委員長：

中規模小規模の施設でMRIの医療事故を減らすための啓発ポスターをMR認定機構で作成したので地区会員の皆さまに配布をしていただきたい。関東甲信越のポスターに関しても同様に共有していただきたい。

鈴木雄一 総務委員長：

役員、地区委員の会員選の根拠となるデータ(2025年9月30日時点のTART会員数)を送らせていただいた。これを元に地区委員数や代議員数の確認をお願いする。代議員数に関しては、会誌に正式に告示として掲載予定である。

鈴木雄一 総務委員長：

事業の重複を回避するためにGoogleカレンダーの共有運用を提案する。イベント日程の仮押さえ・調整はカレンダーを活用し、重複時は関係者間で協議することが早急に行える。導入・運用ルールについて誤削除時のバックアップ、イベント日程重複時の調整方法、アカウント未取得者対応等の整備と周知が必要なため試験運用を提案する。反対意見があれば導入見送りにする。運用について、総務へ連絡するようメールで案内、意見を集約し、次回理事会で決定する。

今後の予定について(総務委員会)

鈴木雄一 総務委員長：

ワンコインセミナーが14日、きめこまかな生涯教育が15日、28日に第3地区研修会が行われる。次年度の事業計画案と予算案の提出について、例年は12月末までだが会議費等の予算の概算ができていないため1月15日ぐらいに提出いただきたい。2月までに事業計画案をまとめて、3月で承認をもらうような流れにしたい。

以上

Postscript

新年あけましておめでとうございます!! 今年2026年は冬季オリンピックイヤー、サッカーワールドカップイヤーですね。年明けから暑い1年になりそうです。そして私が応援していますJリーグは、今シーズンから欧州リーグと同じ秋冬制となり、新たな楽しみがまた増えそうです。

さて、私の干支である巳年は、昨年私に大きな厄を与えることなく無事任務を終えまして(笑)、今年は午年となります。実は私の座右の銘は「人間万事塞翁が馬」でして…。これは有名な故事成語の1つですが、「人生の幸福や不幸は予測できないものであり、良い出来事にも悪い出来事にも一喜一憂すべきではない」という例えです。そこから、何が幸運で何が不運かは、後になってみないとわからない、という教訓となっています。人間(じんかん)とは、世間、世の中、という意味になります。医療の現場に身を置く私たち診療放射線技師にとって、この言葉はどこか身近に感じられるものではないでしょうか。日々、予期せぬ機器トラブルや急な検査変更、患者さんの

状態の変化など、想定外の出来事に向き合う場面は少なくありません。しかし、その一つひとつが後になって経験として蓄積され、技術の向上や安全意識の深化へとつながっていきます。塞翁が馬のように、どの出来事も未来の糧になると考えると、心の持ちようも少し軽くなる気がします。

そして午年は「勢いよく駆ける」だけでなく、「進むべき道を見極めながら着実に前へ進む」象徴ともいわれます。技術革新のスピードがますます加速する中で、私たちの職能も新しい知識の更新が欠かせません。AIや画像解析技術の進展、装置の高性能化、さらにはチーム医療の在り方の変化など、取り巻く環境は常に動き続けています。その中で、本誌が皆さまの学びや気づき、そして仲間とのつながりを広げる一助となれば幸いです。

2026年も、皆さまにとって健やかで充実した一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします!

〈鋼柱〉

■ 広告掲載社

富士フイルムメディカル(株)
キヤノンメディカルシステムズ(株)
(株)ジャパン・メディカル・ブランド
日本メジフィジックス(株)
長瀬ランダウア(株)
シーメンスヘルスケア(株)

東京放射線 第73巻 第1号

令和7年12月25日 印刷(毎月1回1日発行)

令和8年1月1日 発行

発行所 東京都荒川区西日暮里二丁目22番1 ステーションプラザタワー505
〒116-0013 公益社団法人東京都診療放射線技師会

発行人 公益社団法人東京都診療放射線技師会
会長 江田 哲 男

振替口座 00190-0-112644

電話 東京 (03) 3806-7724 <https://www.tart.jp/>

印刷・製本 株式会社キタジマ

事務所 執務時間 月曜～金曜 8時30分～16時00分

案内 ただし土曜・日曜・祝日および12月29日～1月4日は執務いたしません
TEL・FAX (03) 3806-7724

編集スタッフ

岩井 譜憲

森 美加

田沼 征一

志田 晃一

浅沼 雅康
(担当副会長)

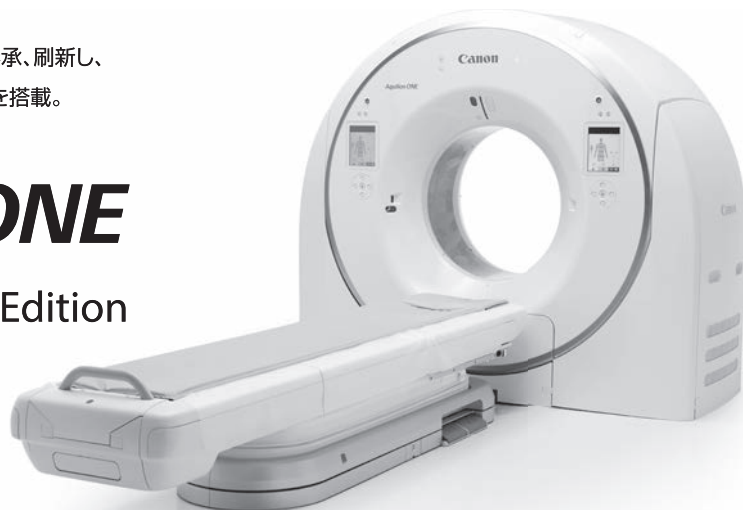
Canon

医療の本質を見抜く、High Resolution ADCT。

Area Detector CT「Aquilion ONE」と、
高精細 CT「Aquilion Precision」で培った技術を継承、刷新し、
超解像画像再構成技術とAIを活用した自動化技術^{※1}を搭載。

Aquilion ONE

INSIGHT Edition



※1 自動化技術: 設計の段階で AI技術を使用しており、本システムは自己学習機能を有していません。
【一般的名称】全身用X線CT診断装置 【販売名】CTスキャナ Aquilion ONE TSX-308A 【認証番号】305ACBZX00005000

B000893

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 <https://jp.medical.canon>

Made For life

新型ハイブリッドサーベイメータ RaySafe 452

FLUKE®
Biomedical



半導体とGM管を組み合わせ、
1台で様々な測定用途に対応可能！

As versatile as you are

【お問い合わせ】  長瀬ランドウア株式会社 営業部

TEL: 029-839-3322 FAX: 029-836-8441
mail@nagase-landauer.co.jp
<https://www.nagase-landauer.co.jp/>



【製品情報】 フルークバイオメディカル

[https://www.flukebiomedical.com/
products/radiation-measurement/
radiation-safety](https://www.flukebiomedical.com/products/radiation-measurement/radiation-safety)

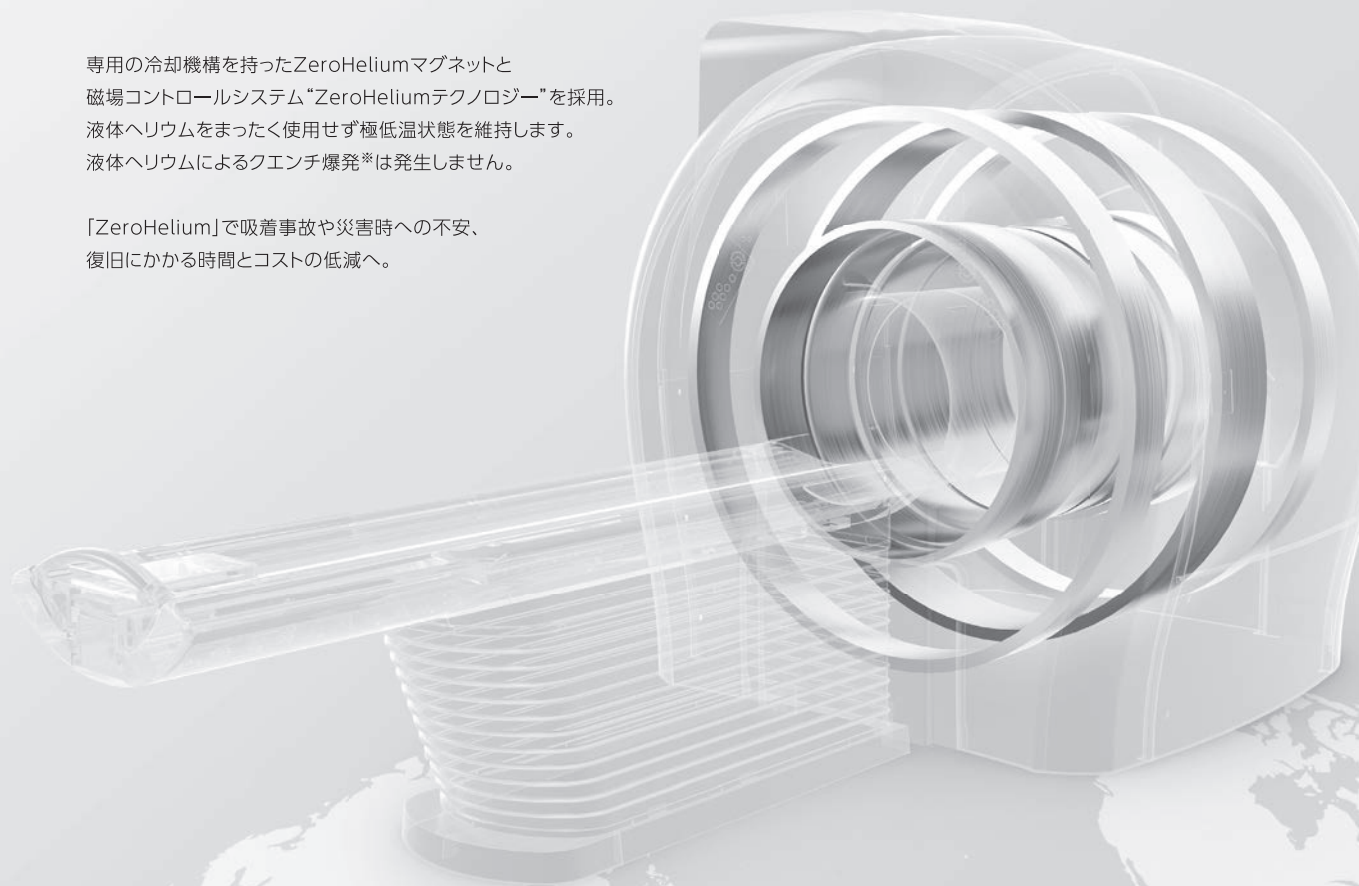


FUJIFILM
Value from Innovation

液体ヘリウムを まったく使わない 超電導MRI

専用の冷却機構を持ったZeroHeliumマグネットと
磁場コントロールシステム“ZeroHeliumテクノロジー”を採用。
液体ヘリウムをまったく使用せず極低温状態を維持します。
液体ヘリウムによるクエンチ爆発※は発生しません。

「ZeroHelium」で吸着事故や災害時への不安、
復旧にかかる時間とコストの低減へ。



ECHELON Smart ZeroHelium



REiLI

※超電導状態を失った時の爆発的なヘリウムの放出を表現しています

製造販売業者

富士フイルム株式会社

販売業者

富士フイルム メディカル株式会社

〒106-0031 東京都港区西麻布2丁目26番30号 富士フイルム西麻布ビル

fujifilm.com/fms/

販売名：MRイメージング装置 ECHELON Smart 認証番号：229ABBZX00028000

●FUJIFILM、および FUJIFILM ロゴは、富士フイルム株式会社の登録商標または商標です。●この広告に記載されている会社名、商品名は、富士フイルム株式会社またはグループ会社の商標または登録商標です。●ECHELON Smart ZeroHeliumはZeroHeliumマグネットを搭載したモデルの呼称です。●仕様および外観は予告なく変更されることがあります。●本製品では一部再生資源を使用する場合があります。

〒二六〇〇三 荒川区西日暮里二二二一五〇五
発行所 公益社団法人 東京都診療放射線技師会
TEL・FAX(〇三)三八〇六七七二四

印刷所

東京都墨田区立川二一七一七
株式会社 キタジマ

定価

金四二〇円(税込)